



理事長・学長からのお知らせ

理事長・学長 細井 裕司

本学では「奈良医大の全国医学部トップ10!」を実現すべく、今後様々な取り組みを行っていきたくと考えております。この実現のためには、奈良医大のみなさん全員の協力が必要です。そこで、理事長・学長として奈良医大にとって重要と考える情報を学報で随時発信していくことにしましたので、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

[1] 第29回日本医学会総会登録のお願い

平成27年2月から4月にかけて、関西で「第29回日本医学会総会」が開催されます。多数ご参加くださいますようお願い致します。詳細につきましては、以下をご参照ください。
<http://isoukai2015.jp/>

[2] 奈良県から奈良医大への運営費交付金が増額されることになりました

知事の理解を得て、病院の施設整備費にかかる運営費交付金が平成26年度より25%から61.25%に増額されることになりました。例えば、100億円の建物を建てると、現状では本学の負担が75億円のところ38億7500万円の負担で済むことになり、36億2500万円の負担減となります。

[3] 国の地域活性化モデルケースに奈良医大のMBTを含む計画が採択されました

内閣府「地域活性化モデルケース」に橿原市と応募しました「飛鳥シティ・リージョンの元気創造」計画が、全国で10件

という狭き門にもかかわらず採択されました。私が提唱していますMBT（医学を基礎とするまちづくり）が事業の中心となっています。国の後ろ盾を得たことにより、本学第二期中期計画の6本柱のひとつである「まちづくり」が大きく前進するものと考えています。



[4] 他大学・研究機関との連携を広げて行きます

(1) 独立行政法人産業技術総合研究所との連携協定の締結
本学は小規模ですが、連携の輪を広げるにより大きな大学となることができると日々考えてきました。その第一歩として、独立行政法人産業技術総合研究所（産総研）と包括連携協定を結ぶこととなり10月14日に調印式を行います。

※産総研は、理研と並んで特定国立研究開発法人となる最有力候補です。

(2) 奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化
先日奈良先端科学技術大学院大学学長と協議の場を持ちました。先端大とは既に包括協定を締結していますが、今後は連携を活性化させていく予定です。

これからも、共同研究を行うための仕組みを整えていく予定です。奈良医大のみなさんが、良き研究のパートナーを見つけ活発に共同研究を行っていくことを期待しています。

※なお、この内容はメールでも配信しています。

Contents

理事長・学長からのお知らせ	1
本院の重点的取り組みについて～7つのプロジェクト～	2
■教授就任挨拶	3
■平成26年度入学式式辞	4
■新入生挨拶／■新入生オリエンテーションを行いました／■東日本大震災における被災者の支援活動等に対する表彰としてNARA Will（学生災害ボランティアグループ）に厚生労働大臣感謝状を授与されました	5
■叙勲受章者のお知らせ／■病院教授就任挨拶／■大学機関別認証評価を受審し、評価基準を満たしていると評価されました	6
■県立医大医師派遣センター・県費奨学生配置センターを開設しました／■県民健康増進支援センターを開設しました／■看護実践・キャリア支援センターを開設しました	7
■夢ナビライブ2014大阪に参加しました／■スウェーデンから特別研究学生を受け入れています／■大学院入試日程	8
■オープンキャンパス2014を開催します／■ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI／■大学院看護学研究科のオープンキャンパス2014を開催しました	9
■クラブ紹介	10
■図書館だより	11

■平成25年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	12～13
■平成26年度 科学研究費補助金決定	14～17
■研究紹介	18
■産学官連携だより／■医療倫理講習会開催案内	19
■日本助産師会会長賞を受賞しました／■博士研究員が第49回「小島三郎記念技術賞」受賞／■第21回 中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	20
■平成26年度 厳重学術奨励賞の表彰式が行われました／■特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました／■JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム「いのちを支える医理系の研究って、やってみたい!」を開催します	21
■平成26年度看護功労者知事表彰を受賞されました／■活躍する専門看護師／■精神医療センターデイケア紹介	22
■部門紹介（B病棟7階・B病棟8階・C病棟3階）	23
■フレッシュマン紹介	24～25
■未来のチームメンバーを探して!!～看護職員リクルートチーム活動報告～／■公開講座「くらしと医学」開催のお知らせ	26
■レポート／■メディア掲載情報	27
看護師インターンシップ・採用試験実施日程／下ツ道／広告	

本院の重点的取り組みについて ～7つのプロジェクト～

病院長 古家 仁

本学附属病院には毎日多くの患者さんが受診され、患者数は年々増加しています。その結果病院の医療収入も増加してきていますが、患者さんが増加すればそれだけ診療に関わる医療従事者も必要になり、使用する医薬材料も増え、結果として支出も増えてきます。さらに、大学病院として最新で高度な診療を行うためには高額な医療機器などの整備も必要になります。また、患者さんに満足していただける環境整備、さらに安全で質の高い医療の提供など、単に診療するだけでなく病院の質を高めることも必要です。これを実現するためには病院に人件費、設備費など資本を投入する必要がありますが、その原資を確保するために大学病院といえども黒字経営を維持する必要があります。赤字であれば積極的な投資などできなくなるわけです。

そこで本院においても経営を考えることが重要な課題になってきています。しかし大学病院として患者さんより経営を優先などということは許されません。そのために必要なことは、無駄をなくし医療の質を上げながら収益を上げるという難しい運営が必要になってきます。あらゆる面での一層の効率的運営を行うということになってきます。そしてそれを実現するためにはスローガンだけでなく経営や診療環境などに関する現状把握や問題点の情報が院内で十分共有され、職員が一丸となって邁進する必要があります。この職員一丸という状況をいかに作り出すかが重要です。そこで本年は次のような方針を出し、それぞれチームリーダーの元チームとして活動していただくようにしました。

それは、現行の組織はそのまま生かし、重要課題に対し病院全体を横断的に見据えた一元的な組織で対応策を検討するプロジェクトの構築です。本年の重要課題として7つのプロジェクトを立ち上げました。以下が各プロジェクトとチームリーダーです。

1. 保険診療対策（斎藤副院長）：診療報酬に定められた診療の実施、適正なコーディングの推進、査定



率の軽減、適正な管理料の運用など保険診療に関する管理を行う、2. 外来診療対策（小林教授）：紹介率、逆紹介率の向上、診療待ち時間の解消、外来ドクター秘書の配置、外来ブースの効率的運用など外来部門の機能の充実、効率化を図る、3. 入院診療対策（中瀬教授）：病床稼働率の向上、病床の効率的な運用のために入退院の調整、管理を一元的に行う、4. 医薬材料対策（田中教授）：償還材料の見直し、購入価格の交渉、非償還材料の洗い出し、削除品目の選定、医薬品の購入価格の交渉、後発薬品の積極的導入などを一元管理する、5. 手術・病病連携対策（中島副院長）：手術件数の増加、手術室の効率的な運用、地域連携室と協力し後方支援病院の開発などを一元的に行う、6. 医療安全・質評価・教育対策（川口教授）：医療安全、医療の質評価、クリニカルパスの機能的な運用、周術期管理センターの運用などを行う、7. がん診療対策（長谷川教授）：がん診療に関わる手術療法、化学療法、放射線治療、緩和療法などを横断的に、また効率よく集学的に行う体制づくりをするとともに県のがん診療の中核となる体制を構築する、という7つのプロジェクトです。

以上のプロジェクトを本格始動させます。このプロジェクトが成功した後は、安全で質の高い、患者満足度の高い、そして経営面でもいろいろな投資ができる病院になると信じています。

教授就任挨拶

微生物感染症学講座 教授就任のご挨拶

微生物感染症学講座
教授 矢野 寿一



この度、平成 26 年 5 月 1 日付けで、微生物感染症学講座教授に任命されました矢野寿一と申します。本講座は、喜多英二名誉教授が主宰されました細菌学講座を前身とし、改組により名を改めたものです。私の専門は、薬剤耐性菌の耐性機序解析で、新規耐性因子を見出し、遺伝学的、酵素学的解析に取り組んでまいりました。本学では、これまでの研究を発展させ、さらに奈良県立医大病院における耐性菌検出状況、耐性遺伝子検出状況を中心とした分子疫学解析を実施し、モニタリングを兼ねた臨床に直結する研究を展開したいと思っています。また、周辺地域における薬剤耐性菌の特性に関する解析を行い、奈良県立医大を中心とした地域医療施設全体への診療支援・ネットワーク構築を行っていきたく考えております。微力ではございますが、奈良県立医大ならびに周辺地域医療に貢献できるよう努力していきたく思いますので、皆様方のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

免疫学講座 教授就任のご挨拶

免疫学講座
教授 伊藤 利洋



この度、平成 26 年 5 月 1 日付で免疫学講座の教授を拝命いたしました。私は平成 11 年に本学卒業後、第二内科（成田巨啓前教授）に入学し、平成 13 年には同内科（木村弘教授）に大学院生として入学し、東京大学大学院医学系研究科分子予防医学で基礎免疫学の研究をする機会を頂きました。大学院修了後、関連病院勤務を経て、ミシガン大学病理学（免疫学分野）に留学し、岡山大学免疫病理学から、この度母校に戻る機会を頂戴いたしました。私はこれまで一貫して様々な疾患モデルにおける免疫学的解析から、治療・予防に繋がる標的分子の提供を目指して参りました。当免疫学講座は、講座改変により新設された講座であり、まさにゼロからのスタートであります。当教室ならびに母校である奈良県立医科大学の発展に貢献すべく、免疫学研究を発展させ、優れた研究マインドを持った医師の養成に尽力して参りたいと存じます。そして様々な教室との共同研究を行い、臨床に貢献できる奈良医大発の研究を行っていきたくと考えております。どうぞ皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 教授就任のご挨拶

耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座
教授 北原 紘



このたび 5 月 1 日付で耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座教授を拝命いたしました。府立四條畷高校から大阪大学に進み、平成 4 年の卒業とともに奈良県立医科大学耳鼻咽喉科名誉教授・松永 喬先生の長兄、松永 亨先生の主宰される大阪大学医学部耳鼻咽喉科学講座に入局し 20 年余、臨床と基礎双方に研鑽を積んで参りました。当教室の歴史を顧みますと、昭和 20 年に倉田包雄先生が奈良県立医学専門学校の初代教授に就任されて以来、めまい・難聴分野で素晴らしい業績を残されてきました。この分野は私自身の専門としてきたところですので、教室員と共に引き継いで参ります。一方、当大学は癌拠点病院ですし、県下には多くの頭頸部癌患者さんがおられます。したがって、癌治療の充実が必要不可欠です。教室内外にいらっしゃる癌専門医の先生方のお力をいただき、頭頸部癌分野をめまい・難聴分野とともに当教室の両輪として発展させて参ります。ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

総合医療学講座 教授就任のご挨拶

総合医療学講座
教授 西尾 健治



この度、平成 26 年 7 月 1 日付で奈良県立医科大学総合医療学講座教授を拝命いたしました。

私は、先代の中村忍教授が築いてこられた総合医療学講座をさらに発展させ、日常的に頻度が高い幅広い疾患に対して、初期対応を適切に行い、患者に寄り添う全人的な医療を地域住民に提供することを目標にしていく所存です。特に、救急医療においては、奈良県で発生した救急患者を県外に搬送させないことを目標に、「断らない医療」を実践できる医師を育成したいと考えております。一方、今年度中に県内 11 町村では 65 歳以上の住民の割合が 40% を超え、全国でも屈指の超高齢化社会となる奈良県においては、高齢者の多岐にわたる疾患や複雑な社会資源に適切に対応し、高齢者の生活や心情に寄り添い、「この医師にかかりたい」と患者さんに思っただけの総合診療医の育成も急務と考えております。救急疾患から慢性疾患までに幅広く対応できる総合診療医の育成は、専門各科の先生方やメディカルスタッフの皆様の御指導・御協力なくしてはありえません。私は、奈良県立医科大学、ひいては奈良県の地域医療の充実に向けて粉骨砕身務めてまいりますので、今後とも御指導・御鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

平成 26 年度入学式式辞 「奈良医大飛躍の時代へ」

学長 細井 裕司

春爛漫の今日のこの良き日に、医学部医学科 113 名、医学部 2 年次編入学生 6 名、医学部看護学科 85 名、看護学科 3 年次編入学生 4 名 合計 208 名の晴れやかな入学生の皆さんをこの奈良県立医科大学に迎えることができましたのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げますとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご列席のご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。

■ 奈良医大の将来

現在、皆さんは奈良医大に入学できてほっとしているでしょう。しかし、本当に良かったと思い始めるのは、2～3 年後です。私の場合は在学中より、卒業後、それも年を経るに従い奈良医大で学べて良かったとの思いがますます強くなってきました。奈良医大はそういうところです。

特に皆さんは奈良医大の歴史上最も輝き、発展する時期に入学しました。荒井奈良県知事をはじめ奈良県の援助を得て、新キャンパスならびに現キャンパス共に、平成 33 年までに施設は一新します。皆さんが卒業し、医師や看護師として活躍しはじめるころには、全国の 80 大学医学部中、最も新しい設備をもった医科大学に生まれ変わります。

奈良医大は学生数でみれば、小さい大学です。しかし、学生一人当たりの教員数は多く、それだけに学生にとっては、充実した学生生活が送れると思います。

私は、奈良医大本体は小さくても、他の大学、研究所、関連病院、企業、地方自治体と連携の輪を広げることによって、総合大学に負けない機能を持った大学にしたいと思っています。

■ エビデンス

皆さんは evidence based medicine という言葉を聞いたことがあると思います。「根拠に基づいた医療」と訳されています。奈良医大でこれから皆さんが学ぶ医療は経験に基づいた医療ではなく「根拠に基づいた医療」です。皆さんは本日から一生かかって、真理の探究をしなければなりません。医療行為をするときその行為が根拠に基づいているのか、自分が納得できるまで調べなければなりません。自分が持っている知識について、その根拠や理由を認識しているか自分に問いかけてください。自分の持っている知識、自分が正しいと思い込んでいる事柄のうち、その根拠や理由がわからないまま、丸暗記している、または信じ込んでいることがいかに多いかに気付くと思います。

多くの日本人は、小さい頃から風邪やインフルエンザを予防するためにうがいをしなさいと親や先生から言われてきました。皆さんの中で「それは本当か」と疑った人は何人いるでしょうか。外国においても風邪予防のためにうがいの励行が推奨されていると思っているのではないのでしょうか。当たり前とされていることでも正しいか疑ってみる態度は自然科学にとって大切なことです。自分にとって当たり前でも、外国ではどうか、他人は別の考えを持っているのではないかと考えることが大切です。

うがいの効果について、科学的根拠はどのようにしたら得られると思いますか。例を挙げましょう。2000 人の被験者を、冬場の 3 ヶ月間、毎日決まった方法でうがいをする 1000 人のグループとうがいをまったくしない 1000 人のグループに分け、風邪やインフルエンザの罹患率を調べると evidence が

得られます。しかし、これとて本当に正しい evidence が得られるでしょうか。被験者は自分がうがいをしたグループなのか、うがいをしていないグループなのかを知ってしまうので、バイアスがかかります。いくつかの論文がありますが、うがいが風邪の予防に効果があるという evidence は確立されていません。ちなみに外国では風邪の予防にうがいを推奨していることはなく、日本独自の衛生習慣のようです。

■ 鶏口牛後

話を変えて、諸君は「鶏頭牛尾」ということばを知っているでしょうか。「大きくとも末端の方にいるよりは、たとえ小さくとも、そこのトップになりなさい。」という意味で使われます。これは正しいのでしょうか。インターネット上でもよく見かけるので正しいと思っている人も多いでしょう。それは間違っている、「鶏口牛後」が正しいという人もいます。根拠を考えて見ます。

語源は中国の戦国時代を記した史記の中で、洛陽の遊説家、蘇秦の言葉に基づきます。「寧ろ鶏口と為るとも牛後と為ること無かれ」です。従って「鶏口牛後」が正しいとの一応の結論を得ます。このことを知った上で、「鶏頭牛尾」は間違いなのかを考えて見ます。「鶏口牛後」が日本に伝わり、鶏口や牛後よりもっとわかり易く「鶏頭牛尾」といわれるようになりました。語源的には誤りでも、言葉は生き物ですから、それが日本に定着している以上、「鶏頭牛尾」も日本のことわざとしては間違いではないとの考えも成り立ちます。

なぜ「鶏口牛後」の話をしたか皆さんはおわかりでしょうか。理由はいくつかあります。まず、第 1 は、医学や看護学という学問と実地医療の相違です。学問はエビデンスだけでよくても、医療は患者さんという人が対象です。エビデンスだけでは済まないところが多々あります。「鶏口牛後」のエビデンス（ここでは語源ですが）を理解した上で「鶏頭牛尾」も認めるという態度が実地医療では必要なことがあります。医学的に何が正しいかを認識した上で、患者さんの心を理解することがいかに大切かも学んでいってください。

第 2 は、どんな小さなグループでもよいから、皆さんに鶏口となって欲しいのです。理由は、トップになると、人の意見を聞き、情報を収集分析し、課題を成し遂げるために戦略を練り、そして決断することが要求されます。この過程は人を成長させます。

第 3 に、個人だけでなく、奈良医大も鶏口になる決意です。単科大学の中でトップという意味だけではありません。新しい発想で総合大学を凌駕するような大学にします。学生数など大学のサイズは小さくても、内容は充実し、いくつかの分野で鶏口となり、総合力でも全国医学部のトップ 10 になれるように奈良医大のすべての人が力を合わせていきます。

■ おわりに

先ほども述べましたように、奈良県のご支援で、平成 33 年には新キャンパスができます。現キャンパスも一新されます。この時、日本で最新の施設が完成します。その中に魂を入れ、内容を充実させ、奈良医大を医学・看護学における鶏口とするのは、皆さん一人一人の役目です。新キャンパスは奈良医大にとって 100 年に 1 回のチャンスと言えます。皆さんはこのように飛躍しようとしている奈良医大に本日入学されました。

目標に向かって共に頑張りましょう。

皆さんが充実した学生生活を送られることを祈願します。



新入生挨拶

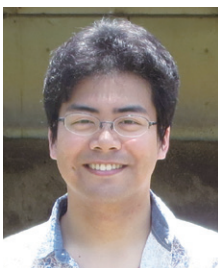
医学科 ^{しなと たかし} 階戸 尊

陽春の候、風光る中、私たちは奈良県立医科大学に入学しました。

桜のまだ残るあの日から早数ヶ月が経とうとしており、教育支援課の方や先輩、同級生のおかげで新たな大学生活にも慣れ始めた今日この頃。ようやく今後の学生生活をよりリアルに考えられるようになってきました。

私たちは今、医大生としての自覚と責任を持ち、医学知識や技術の習得はもちろんのこと、患者さんの想いに敏感な医師となれるよう共に努力し邁進していく所存です。

未熟な私たちですが、先生方、先輩方、ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



看護学科 ^{しもむら みな} 下村 美奈

厳しい冬を越え、柔らかな春風とともに私たちは奈良県立医科大学に入学しました。そして7月を迎えた今日。すっかり大学生活にも慣れ、予想以上に忙しい毎日をおくっています。私たちはそれぞれ少しずつ違うけれど、医療従事者になるという大きな夢があります。その夢に向かって学年全員で支えあい、日々努力してまいります。教職員の方々、先輩方、どうかご指導の程よろしく申し上げます。



新入生オリエンテーションを行いました

医学科では、113 名の新入生を対象に、入学式の 4 月 9 日にガイダンスを、また入学式の翌日 4 月 10 日から 4 月 11 日にかけて、宇陀市の「美榛苑」で 1 泊 2 日の課外研修を行いました。課外研修では、新 6 年生 5 名及び本学を卒業された 4 名の研修医の先生にもご参加いただき、医師としての生活や、学生時代の思い出についてインタビュー形式でお話をうかがいました。入学式から 3 日間のオリエンテーションで、先輩方からの貴重な話により、本学医学生になった喜びを再認識することができ、また、新入生同士は、他己紹介という形で交流を深めることで友達づくりに役立った様子うかがえました。

看護学科では、89 名の新入生（編入 3 年生 4 名を含む）を対象に、入学式の 4 月 9 日から 10 日にかけて 3 名の非常勤講師による講話、授業や学生生活に関するガイダンスを行ないました。編入生



医学科新入生

4 名を除く 85 名の新入生はガイダンス終了後、奈良市の「ボスコヴィア」で 1 泊 2 日の課外研修を行ないました。課外研修では、教員による各領域の紹介、4 年生 4 名による学生会主催の交流会が行なわれました。

翌日には「将来、医療従事者になるにあたって」というテーマで、自分たちの考えをグループワークでまとめて発表しました。

医学科看護学科とも、新入生同士そして先輩との交流も深まり、新しい生活に向けて充実した時間を過ごせたのではないかと思います。



看護学科新入生

東日本大震災における被災者の支援活動等に対する表彰として NARA Will (学生災害ボランティアグループ) に厚生労働大臣感謝状を授与されました

NARA Will 代表 医学科 3 年 中務 智彰

学生災害グループでは福島県内でのボランティア活動や追悼行事などを行ってきましたが、多くの方々、団体、施設のご協力を賜りました。こういった経緯を踏まえると、われわれ奈良

県立医科大学の学生だけでなく、関係者の皆さんでいただくことのできた感謝状であると考えております。

被災地の現状や、継続的な被災地支援の必要性を 1 人でも多くの人に伝えられるよう、学生としての長所を活かしなが引き続き被災地支援に取り組んで参ります。



追悼行事キャンドル点灯



福島県内でのボランティア活動



厚生労働大臣感謝状授与と報告

叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～

叙勲は、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。

去る、4月29日に平成26年春の受章者の発令があり前看護師長の植田みさよ氏が受章されました。

心からお祝い申し上げます。

■ 瑞宝単光章 植田 みさよ 氏 (前看護師長)

医療安全推進室 病院教授就任ご挨拶

医療安全推進室 病院教授 安宅 一晃

この度、平成26年6月1日付けで本学附属病院医療安全推進室病院教授に就任させていただくことになりました。これまで集中治療の第一線に身を置く中で院内の重症患者を通して見えてくる、患者安全の問題と向き合ってきました。今回、本学でこのような立場につくことができ、その重責を感じるとともに、安全な医療

を提供するお手伝いができるように努力が必要だと感じております。皆様方のご指導・ご鞭撻ならびにご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。



大学機関別認証評価を受審し、評価基準を満たしていると評価されました

大学の教育及び研究活動は、大学が自らの点検・評価を通じて適切な水準を維持し、質の向上を図る必要があります。言い換えれば、教育研究の質の保証は、大学自らに第一義的責任があることになっており、これは学校教育法第109条第1項により定められています。



また、その担保として、関係法令への適合や教育研究の質の保持のため、7年ごとに文部科学大臣の認証を受けた機関による評価(大学機関別認証評価)を受けることが同条第2項で定められています。

昨年度、本学の教育研究が一定の水準を満たしていることの保証を受けるため、

独立行政法人大学評価・学位授与機構によるこの評価を受審しました。

その結果、同機構より大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を

満たしていると評価されました。

また、本学の優れた点として以下の5点が評価されました。

- ①文部科学省教育GPに「地域に教育の場を拡大した包括的教育の取組」が採択(平成20年度～平成22年度)。
- ②研究医養成コースを設置し、2年次に連携大学からの編入学、医学科学生の希望者が当コースを選択できる制度を平成24年度から実施。
- ③医学科基礎医学教育課程の2年次に、少人数グループによる討論型授業のTBLを実施(解剖学・生理学・生化学)。
- ④医学科のシラバス(教育要項)が、学習の手引きとして役立つよう学年別に分冊され、一般教育、基礎医学教育及び臨床医学教育の特性に応じた内容、構成であり、教員・学生が活用。
- ⑤他機関への派遣研修の実施等、職員の資質向上について取組。

なお、本学ホームページ(http://www.naramed-u.ac.jp/info/plan_evaluation/certification.html)に大学評価・学位授与機構へ提出した自己評価及び同機構からの評価結果を掲載しています。

県立医大医師派遣センター・県費奨学生配置センターを開設しました

昨年 10 月、奈良県と奈良県立医科大学の共同で大学内に県費奨学生配置センターが設置されました。当初は地域医療学講座の部屋を借り、緊急医師確保枠では第 1 回卒業生になる皆さん、初期研修を終えて義務期間に入る研修医の皆さん、既に義務履行中の皆さんと面談をしながら、この 4 月の配置に向けた調整を行ってきました。

県と本学は、医療の地域偏在、診療科偏在を解消するため、その不足する診療科等の医師を確保するとともに、奈良県に愛着を持ち、奨学生としての義務年限終了後も奈良県内で活躍する医師をひとりでも多く養成することを目指しています。平成 36 年には約 130 名の医師が県内で勤

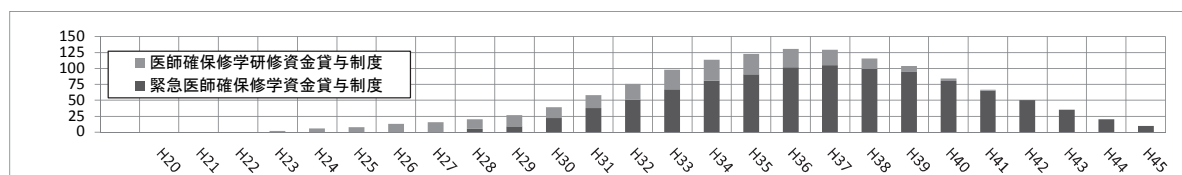
務することになります。

そして、この 4 月に県立医大医師派遣センターの設置と共に大学本部棟 2 階に居を構え、職員も増員しました。奨学生の皆さんのキャリア支援、相談に、より一層きめ細やかに対応できるよう努力して行きます。加えて、適正な医師配置に向けた調整を行い、地域医療への貢献を積極的に支援して行きます。今後、各講座・センター等をはじめ、県内医療機関との連携をさらに深め、ご理解を得ることができまよう取り組んで行きますので、ご支援ご協力をお願い致します。

＜義務履行予定者数＞

(単位:人/年)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
緊急医師確保研修資金貸与制度									5	9	22	38	51	67	81	91	102	105	100	96	80	66	50	35	20	10
医師確保研修資金貸与制度				2	6	8	13	16	15	18	17	20	25	31	33	32	29	25	16	9	4	1				
合計				2	6	8	13	16	20	27	39	58	76	98	114	123	131	130	116	104	84	67	50	35	20	10



県民健康増進支援センターを開設しました

平成 26 年 4 月より基礎医学棟 4 階に県民健康増進支援センターを開設いたしました。

センター長として広報・渉外担当理事、マネージャーとして地域健康医学教授を置き、さらに専任の教員と事務職員（各 1 名）がスタッフとして加わるようになりました。

当センターの設置目的は、市町村や県が実施する健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報、研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援することです。つまり、当センターは「地域貢献」

の役割を担っております。具体的には、地域包括ケアシステム構築に向けての指導・支援、保健師などへの研修会実施や調査・研究への指導、公開講座の開催などです。さらには『奈良県健康長寿 1 万人コホート研究』の計画を進めております。これらの取り組みを進めるにあたっては、センター職員だけでは目的を達成することはできず、本学の皆様のご協力が必要になります。今後とも、センターの活動へのご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(教育支援課)

看護実践・キャリア支援センターを開設しました

平成 26 年 4 月より、スキルスラボ棟 3 階に看護実践・キャリア支援センターを開設しました。大名看護部長と軸丸看護学科長が兼任のセンター長及び副センター長、上平特任教授が専任のディレクターとして就任しました。さらに 2 名の教職員（兼任）と、専任の事務職員の倉西囁託の合計 6 名体制で業務を行っていきます。

当センターの目的は、看護学科学生・看護師の教育・研修・研究支援や、看護学科学生・看護師のキャリア支援など多岐にわたります。しかし、看護師の研修という点では、看護部に「教育支援室」が既に設置されており、数名の看護

師が活躍されています。そこで、当面は既存の部署が行っている業務との調整が必要になります。

また、センターは「地域貢献」という役割も担っており、看護協会や同窓会などの外部組織との連携も欠かせません。いずれにしても、センター付の教職員の力だけでは目的を達成することはできず、学生や看護師、その他教職員の方々のご協力が必要になります。「看護の質」向上のためにも、皆様の積極的なセンター活動への参加をお願い致します。

夢ナビライブ 2014 大阪に参加しました

6月21日、大阪市住之江区のインテックス大阪で「夢ナビライブ 2014」が開催されました。夢ナビライブは、大学教授がミニ講義を行なう「講義ライブ」、大学担当者が大学の特色や入試情報の説明を行なう「大学個別説明ブース」から構成され、全国から150を超える大学が参加し、約18,000人の高校生が来場しました。

講義ライブでは化学教室の酒井宏水教授が「人工赤血球をつくる」と題する講義をされ、立ち見が出るほど多くの高校生が集まったほか、講義終了後も熱心な質問が相次ぎました。

一方、本学個別説明ブースには67名の高校生が訪れました。

夢ナビライブに参加した多くの高校生が本学を受験することを期待します。



酒井教授の講義



個別説明

スウェーデンから特別研究学生を受け入れています

本学の大学院では、他学の大学院生を受け入れて研究を指導する「特別研究学生」の制度があります。今年の3月から6ヶ月間、カリン・ケティセンさんが本学で研究をしています。

医学研究科修士課程特別研究学生 カリン・ケティセン

私は、スウェーデンから来ました、カリン・ケティセンです。 Lund 大学バイオテクノロジー部門（学部・修士課程一貫）の5年生です。Lund 大学プロジェクトコースで人工血液に関する興味深い研究を知り、指導教授の紹介により、今年の3月から、化学教室の酒井教授の指導のもと、人工赤血球についての研究

をしています。大学での研究の合間に、美味しい日本料理や日本酒、美しい寺院の散策など、美しい日本を体験できてとても幸せです。日本の人は、私がスウェーデンから来たことを知ると驚きますが、私も、スウェーデンというずっと遠くの、小さくて人口も多くない国がどこにあるのかを日本の人がよく知っていることに驚いています。日本の地理の先生が素晴らしいので、しょう、きっと！



大学院入試日程

平成26年度 秋入学

大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	若干名	平成26年7月25日（金）まで	平成26年8月11日（月）	平成26年9月9日（火）
生体情報・病態制御医学専攻				
生体分子・機能再建医学専攻				

●社会人の入学も可能です。

●社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

平成27年度

大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7	第一次募集： 平成26年10月20日（月）～10月24日（金）	第一次募集： 平成26年11月10日（月）	第一次募集： 平成26年12月9日（火）
生体情報・病態制御医学専攻	13	第二次募集： 平成27年1月13日（火）～1月16日（金）	第二次募集： 平成27年2月2日（月）	第二次募集： 平成27年3月6日（金）
生体分子・機能再建医学専攻	20			

●社会人の入学も可能です。

●社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

●平成27年度の秋入学の日程は平成27年度に発表します。

大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5	第一次募集： 平成26年9月1日（月）～9月5日（金） 第二次募集： 平成27年1月26日（月）～1月30日（金）	第一次募集： 平成26年9月22日（月） 第二次募集： 平成27年2月9日（月）	第一次募集： 平成26年10月14日（火） 第二次募集： 平成27年3月6日（金）

●社会人の入学も可能です。

但し、平成27年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。

大学院看護学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学コース専攻	5	第一次募集： 平成26年7月22日（火）～7月25日（金） 第二次募集： 平成26年11月5日（水）～11月6日（木）	第一次募集： 平成26年8月21日（木） 第二次募集： 平成26年12月2日（火）	第一次募集： 平成26年9月2日（火） 第二次募集： 平成26年12月9日（火）
看護学実践コース専攻	5			

●社会人の入学も可能です。

●社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

但し、平成27年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。

●助産学実践コースについては、就学中は学業に専念できる者として。

オープンキャンパス 2014 を開催します

●医学科 8月2日(土) ●看護学科 8月3日(日)

今年も恒例のオープンキャンパスを開催します。
日程は、医学科は8月2日(土)、看護学科は8月3日(日)に行います。

毎年多くの方が参加され、好評をいただいております。
主に受験生や高校生を対象としますが、どなたでも参加することができます。

今年も学生がデザインから形状までを考案した大学オリジナルバッグを参加者に配布します。

実施にあたりまして関係の皆様のご協力をお願いします。



昨年のオープンキャンパスの様子



【日時】 医学科 8月2日(土) 13:00～17:00
看護学科 8月3日(日) 13:00～17:00

【場所】 奈良県立医科大学 大講堂等

【対象】 受験生、高校生、保護者、教員、その他どなたでも参加できます

【内容】 ・学長講演
細井 裕司 学長『世界トップレベルの医師・看護師をめざして』
・学科紹介
・模擬ミニ講義
2日 病理診断学 大林 千穂 教授『がんの診断と治療』
3日 老年看護学 水主 千鶴子 教授『百寿者の秘訣』
・先輩からのメッセージ
・施設見学(※事前申込制)
・相談コーナー

学生ボランティア募集中

オープンキャンパスには多数の方の参加が見込まれますので、当日の受付、施設見学、個別相談等、運営のお手伝いをしてもらえる在学生を募集しています。

ボランティアの受付は教育支援課厚生・入試係で行っていますので、ご協力をお願いします。

(研究推進課)

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI



この事業は、研究機関で行っている最先端の科研費の研究成果について、中高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムです。

今年は、産婦人科学講座と循環器システム医科学が独立行政法人日本学術振興会の採択を受けて開催します。

テーマ1 心臓と血管の形づくりと病気 ～医学研究と診療の両面から～

【日 時】 平成 26 年 7 月 26 日(土) 10:00～17:00

【場 所】 奈良県立医科大学基礎医学棟 5 階会議室

【締 切】 平成 26 年 7 月 11 日(定員になり次第受付終了します)

【対 象】 中学 2・3 年生、高校生 【定 員】 計 20 名(事前申込制)

【詳 細】 <http://www.narmed-u.ac.jp/csr/index.html> (循環器システム医科学)

テーマ2 命を産み出す子宮とそれを蝕む病 ～原因からその予防法を一緒に考えてみよう～

【日 時】 平成 26 年 8 月 2 日(土) 10:20～17:20(集合時間 10:00～10:20)(オープンキャンパスと同日開催)

【場 所】 奈良県立医科大学基礎医学棟 4 階会議室

【締 切】 平成 26 年 7 月 25 日(定員になり次第受付終了します)

【対 象】 高校生(女性限定) 【定 員】 計 20 名(事前申込制)

【詳 細】 <http://www.narmed-u.ac.jp/~gyne/> (産婦人科学)

(教育支援課)

大学院看護学研究科のオープンキャンパス 2014 を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを6月14日に開催しました。

平成 25 年度から始めたオープンキャンパスでしたが、今年も多くの方にご参加いただき、大盛況に終わることができました。

プログラムとしては、まず「看護学科長の挨拶」があり、次のプログラムからは看護学コースと助産学実践コースのコース別に分かれ、行いました。

看護学コースでは、「概要と特色」や「研究紹介」、「個別相談会」、「先輩との座談会」が行われました。「個別相談会」では、参加者が志望する指導教員のもとで研究テーマや履修についての相談が行われました。また、「先輩との座談会」では、参加者からは、仕事と研究の両立について、入試に関することなど、多くの質問が寄せられたようです。今年から行われた指導教員による「研究紹介」では『教授の方のテーマの説明やアピールがわかりやすく、熱意を感じました』などの感想が聞かれ、非常に好評でした。

助産学実践コースでは、「概要と特色」や「個別相談会」、「先輩との座談会」、「施設見学」が行われました。昨年も好評であった「施設見学」では、主な実習先となる附属病院バースセンターを見学し、

参加者からは『入学後の実習について想像することができた』などの感想が聞かれました。

平成 27 年度の入学試験は、8月21日(二次募集:12月2日*)に実施されます。

学生募集要項(願書)やパンフレットなど大学院看護学研究科に関する資料は、本学大学院看護学研究科担当あてに請求またはお問い合わせください。

※一次募集の結果により二次募集を実施しない場合もあります

【問い合わせ先】 教育支援課 看護学研究科担当
0744-22-3051 内線 2390・2401



助産学実践コース「施設見学」



先輩との座談会

クラブ紹介



男子バレーボール部

「日々精進」

部員 ▶ 33 名

顧問 ▶ 嶋 緑倫 (小児科学教授)

キャプテン ▶ 藪田 順紀 (医学科 4 年)

活動日 ▶ 月、水、土

奈良医大男子バレーボール部は医学科 22 名、看護科 11 名、計 33 名で、大学の体育館にて日々、練習に励んでいます。部員は初心者が多く、優しい先輩方が基礎の基礎から丁寧に指導してくださるので、大学からバレーボールをやりたいなと思っているけど大丈夫かなと思っている人でも大歓迎です。初心者の人でも大会等で存分に活躍しています。

最近の大会の成績は、1 年で一番大きい大会である西日本医科学生総合大会 (西医体) はベスト 8、秋季近畿医歯薬大会は準優勝、秋季東海医歯薬大会はベスト 8 に入ることができました。

バレーボールはチーム競技ということで非常に部員同士の中が良く、同学年同士だけでなく上下の繋がりが非常に濃いのが奈良医大バレー部の誇りです。またバレー部は医学科だけのクラブではなく、プレイヤーとして看護科の部員もあり、マネージャとしてもチームに携わってもらっています。さらに、女子バレーボール部とも交流があり、BBQ を一緒に行ったり、ご飯会を行ったりしています。バレー部に入れば多くの人と交流を持てること間違いなしです。興味があれば是非、体育館に足を運んでください。

少しだけ意識を集中してみると、ジャズほど町中でよく耳にする音楽は珍しいということに気づくでしょう。テレビ、ラジオはもちろんのこと、衣料店、本屋、寿司屋などおおよそジャズとは関係のないところにまでジャズは息づいています。

私達は毎週、月、木、土の 3 回、ジャズの魅力に取り付けながら練習を行っています。ジャズには多くの形式がありますが、私達が特に力を入れているのはビッグバンドという形式です。トランペット 5 人、トロンボーン 4 人、サックス 5 人、ピアノ 1 人、ベース 1 人、ドラム 1 人の 17 人で構成され、大迫力の演奏が魅力です。

軽音楽部の行事の多くは地域と密着しています。他大学との合同コンサートを年 2 回以上開催し、老人ホームでの演奏、地元行事や学会演奏などの依頼演奏、そして年に 1 回、橿原文化会館にて定期演奏会を行っています。

部員の大半は初心者から楽器を始めますが、1 年経てばバンドには欠かせない存在となります。軽音楽部での詳しい活動内容や演奏情報などは HP で更新しておりますので是非ご覧ください。

<http://hardstrem.web.fc2.com/index.html>



軽音楽部

「今しかできないジャズを」

部員 ▶ 32 名

顧問 ▶ 川口 昌彦 (麻醉科学教授)

部長 ▶ 浅川 嵩識 (3 年)

活動内容 ▶ ビッグバンドジャズ

練習日 ▶ 毎週月、木曜日の午後 5 時から
土曜日の午後 1 時から

図書館だより

スポットライト (第1回)

図書館にある本は、医学や看護学の専門書だけではありません。この連載では、そういった専門書以外の本にスポットライトを当ててご紹介します。

今回は「研究発表」に関する本です。医療従事者であれば、研究発表をする機会も多いのではないのでしょうか。多忙な業務の中、せっかく時間を割いて研究発表の準備をするのなら、発表の仕方にも工夫し、いい発表をしたいものです。初めての発表で何からやったらいいかわからないという方、いつもワンパターンの発表方法だという方、聞き手を飽きさせない発表をしたいと考える方はぜひこれらの本をご参照ください。

～研究発表に関する本～

配架場所	書 名	請求記号
図書館2F閲覧室 南側語学・ 国試コーナー	聞き手を熱狂させる!戦略的話し術：オバマに学ぶNLPプレゼンテーション / 二階堂忠春, 田中千尋著	809.2-Nik
	レポート・論文・プレゼンスキルズ：レポート・論文執筆の基礎とプレゼンテーション / 石坂春秋著	816.5-Ish
	社会科学系のための英語研究論文の書き方：執筆から発表・投稿までの基礎知識 / 石井クワン子著	836.5-Ish
図書館2F閲覧室 北側単行本	発表が楽しくなる!研究者の劇的プレゼン術：見てくれスライド論&よってらっしゃいポスター論と聴衆の心をつかむ講演技術 / 堀口安彦著	490.7-Hor
	JJNスペシャル(89)医療者のための伝わるプレゼンテーション	490.7-Jjn
	米国式症例プレゼンテーションが劇的に上手くなる方法 / 岸本暢将編著	490.7-Kis
	よく出会う18症例で学ぶプレゼンテーションの具体的なポイントとコツ：初めてだってうまくいく! / 天理よろづ相談所病院レジデント著：江原淳編集	490.7-Ten
	PowerPointのやさしい使い方から学会発表まで：アニメーションや動画も活かした効果的なプレゼンのコツ / 谷口武利編	490.7-Tan
	流れがわかる学会発表・論文作成how to:症例報告,何をどうやって準備する? / 佐藤雅昭著	490.7-Tan

検索マスターへの道 (第1回)

ある疑問に対し、医学情報データベースでどのように検索したのかを解説するシリーズです。検索の工夫をどんどん紹介していきますので、ご自身の検索にご活用ください。

今回のお題は「重症高血圧の妊婦に対してヒドラルジンとカルシウム拮抗薬ではどちらが有効か」です。5月21日に図書館で開催した検索講習会ではこのお題を使って検索しました。

医中誌Web検索式例(件数は2014.6.10時点)

#1	☐ (妊産婦/TH or 妊婦/AL)	27,634
#2	☐ (妊娠/TH or 妊婦/AL)	168,307
#3	☐ #1 or #2	171,293
#4	☐ (高血圧/TH or 高血圧/AL)	125,498
#5	☐ (Hydralazine/TH or ヒドラルジン/AL)	610
#6	☐ ("Calcium Channel Blockers"/TH or カルシウム拮抗薬/AL)	34,008
#7	☒ #3 and #4 and #5 and #6	86

お題から「妊婦」、「高血圧」、「ヒドラルジン」、「カルシウム拮抗薬」をキーワードとして抽出しました。「妊婦」で検索すると件数が少なかったため、「妊娠」というキーワードを追加し、or でまとめました。自動生成された検索式を見るとシソーラス(TH=統制語)

が付与されていることが確認できます。

上位語・下位語
化学作用と効用(d27+)
薬理作用(d27-30+)
治療利用(d27-30-10+)
心臓血管作用薬(d27-30-10-110+)
Calcium Channel Blockers(d27-30-10-110-70+)
Amlodipine(d27-30-10-110-70-10)
Amrinone(d27-30-10-110-70-20)
Aranidipine(d27-30-10-110-70-30)
Azelidipine(d27-30-10-110-70-40)
Azimilide(d27-30-10-110-70-50)

※この下にもまだまだ下位語が続いています。

シソーラス「Calcium Channel Blockers」の階層から、具体的な薬剤名が下位語に含まれていることを確認でき、薬剤名をキーワードに追加しなくてもよいことがわかります。

全部のキーワードをかけあわせると86件。この中には、比較試験の文献はあまりなく、今回の参考文献としてぴったりのものは見つかりませんでした。これは、対象者が妊婦であるため臨床試験がしにくいことや、そもそも日本ではまだまだ臨床試験が少ないことなどが考えられます。そこで、先行している海外の文献をPubMedで検索してみます。

PubMed検索式例(件数は2014.6.10時点)

Search	Add to builder	Query	Items found	Time
#5	Add	Search #1 AND #2 AND #3 AND #4	70	02:44:23
#4	Add	Search calcium channel blocker	97178	02:43:41
#3	Add	Search hydralazine	5715	02:43:18
#2	Add	Search pregnancy	770239	02:43:11
#1	Add	Search hypertension	382071	02:42:59

(図1)

検索語と実際の検索式の対応表

	検 索 語	自動生成された検索式
#1	hypertension	"hypertension"[MH] OR "hypertension"[AL]
#2	pregnancy	"pregnancy"[MH] OR "pregnancy"[AL]
#3	hydralazine	"hydralazine"[MH] OR "hydralazine"[AL]
#4	calcium channel blocker	"calcium channel blockers"[PA] OR "calcium channel blockers"[MH] OR ("calcium"[AL] AND "channel"[AL] AND "blockers"[AL]) OR "calcium channel blockers"[AL] OR ("calcium"[AL] AND "channel"[AL] AND "blocker"[AL]) OR "calcium channel blocker"[AL]
#5	#1 and #2 and #3 and #4	#1 and #2 and #3 and #4

PubMedも同じように検索しました。自動生成された検索式を見ると、「calcium channel blocker」に[MH] = MeSH や[PA] = Pharmacological Action が追加されていること、そのほか、「calcium」、「channel」、「blocker」の3つの単語をANDでかけたものがあることなどがわかります。これだとむやみに広く検索してしまうので、「"calcium"[AL] AND "channel"[AL] AND "blockers"[AL]」、「"calcium"[AL] AND "channel"[AL] AND "blocker"[AL]」を削除して、[MH]、[PA]と「calcium channel blocker」のフレーズ検索のみにすると、もっとすっきりとした検索式になります。

ちなみに、これらの自動生成された式を見るときは、図1で検索履歴番号(# ○)をクリックし、Show search detailsを選択します。70件の検索結果の中に、文献のエビデンスレベルが高いとされるRCTやコクランのシステマティックレビューが入っていました。

医中誌WebやPubMedを検索するとき、統制語に注目しながら検索式を組み立てることで、結果の精度を上げることができそうです。検索したときには結果だけでなく検索式にも注目してみてください。

平成 25 年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

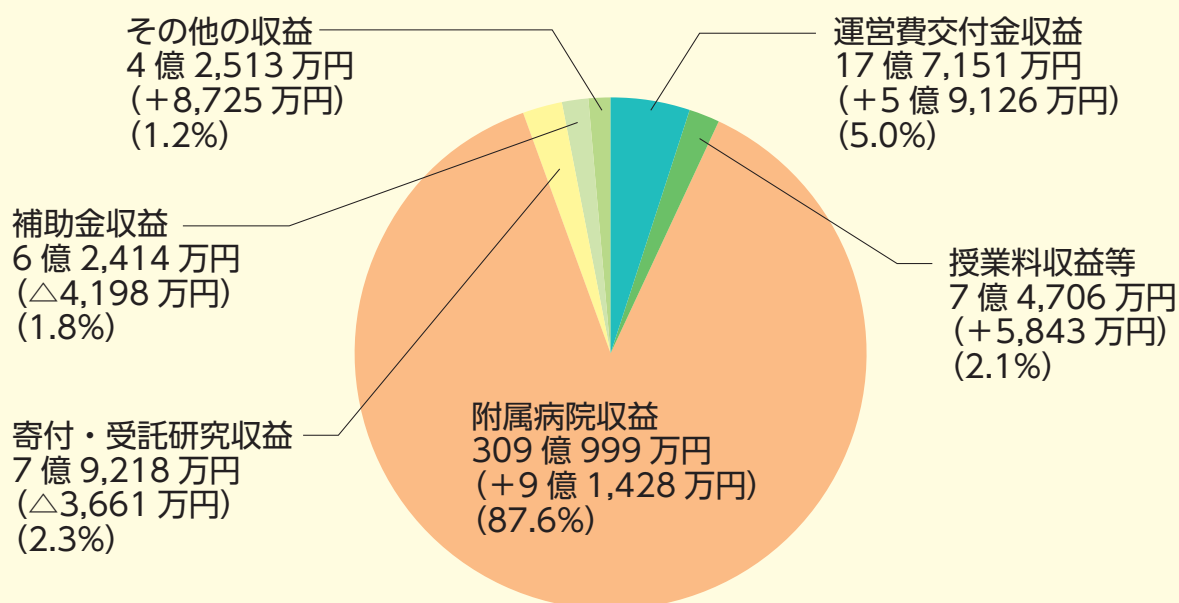
平成 25 年度決算 収益 352 億 7,001 万円(+15 億 7,264 万円)

費用 355 億 695 万円(+19 億 2,945 万円)

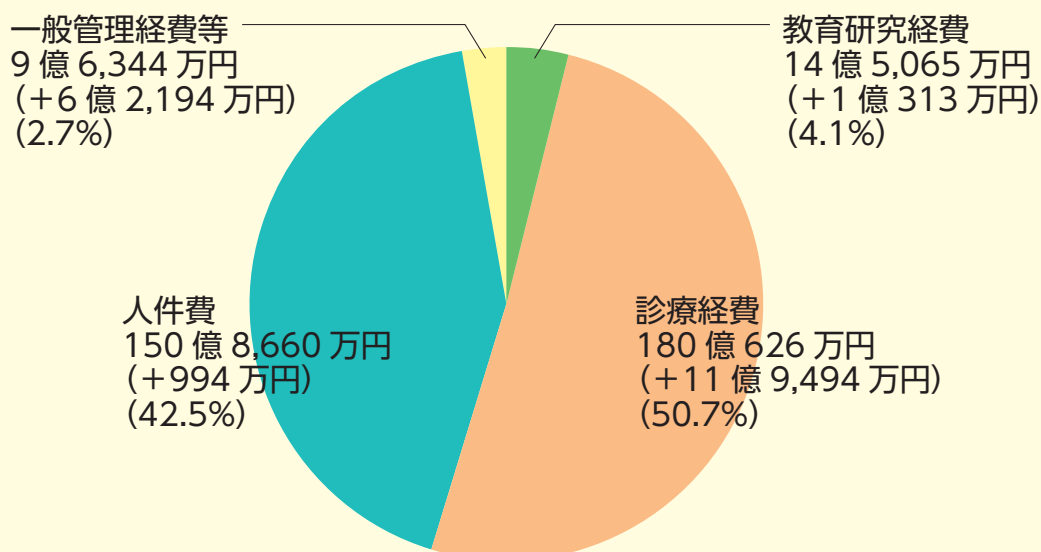
差引 2 億 3,694 万円の赤字 (H24 / 1 億 1,987 万円の黒字)

※ () 内は前年との増減額

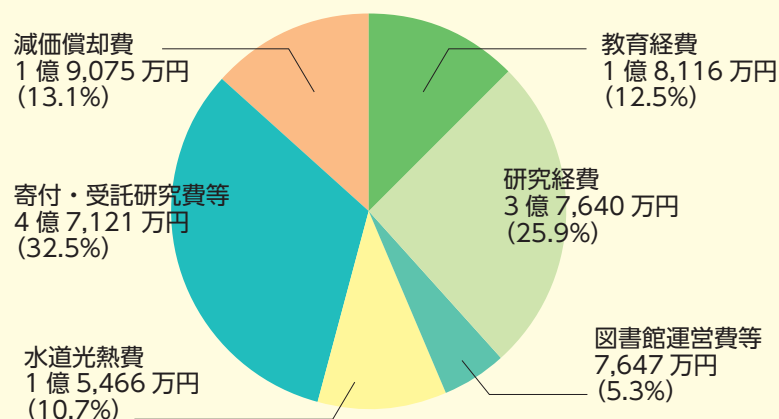
収 益



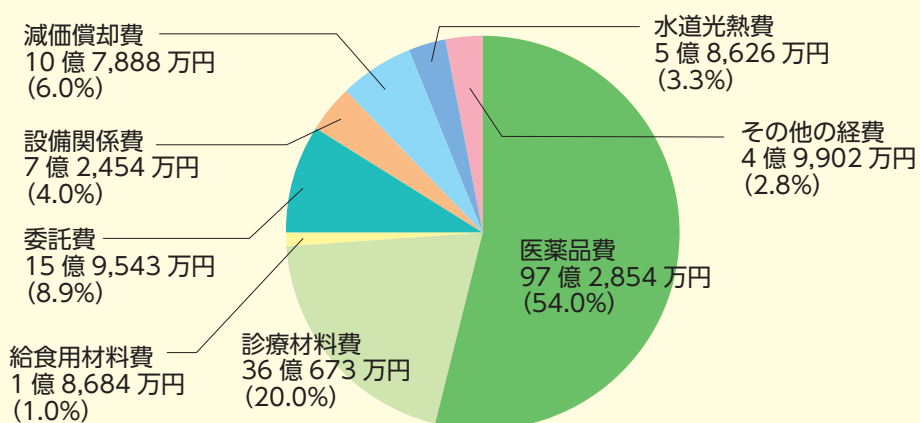
費 用



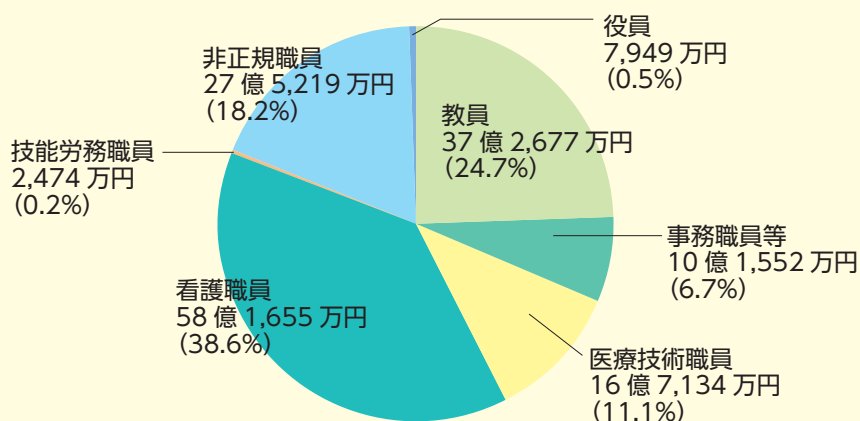
教育研究経費の内訳



診療経費の内訳



人件費の内訳



平成 25 年度は退職給付引当金を臨時計上したことなどにより赤字決算となり、法人化以降の累積赤字は 10 億 7,777 万円となりました。

第 2 期中期計画ではこの累積赤字の解消が目標となる一方で、附属病院新棟建設や医療機器整備等により費用負担の増加が見込まれますので、皆さんには経費節減など目標達成に向けた取り組みへ引き続きご協力をよろしくお願いします。

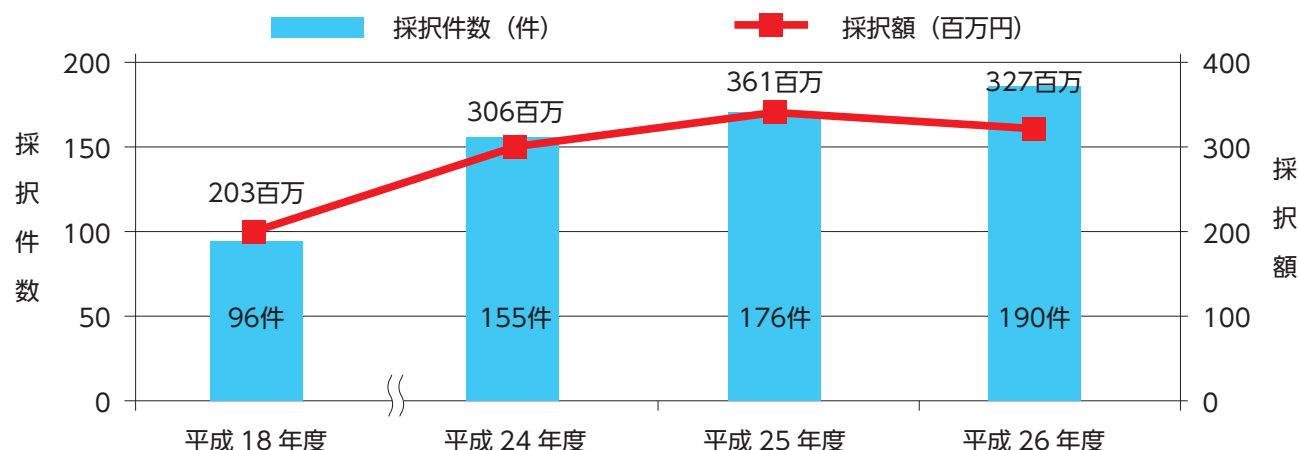
平成 26 年度 科学研究費補助金決定

平成 26 年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金（文部科学省、独立行政法人日本学術振興会））が決定しました（研究活動スタート支援等を除く）。

平成 26 年 5 月 1 日現在の状況は表のとおりです。来年度においても、より積極的な申請をよろしくお願いします。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	直接経費	間接経費
平成26年度	190 (+97.9%)	327,390 (+61.1%)	252,300	75,090
平成25年度	176 (+83.3%)	361,350 (+77.8%)		
平成24年度	155 (+61.5%)	306,150 (+50.6%)		
平成18年度	96	203,220		

() は平成18年度比



平成26年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

事業名	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究 (研究領域提案型)	循環器システム医科学	助教	坂部 正英	心臓中隔や弁の前駆組織をつくりだす部位特異的な細胞運動とそれを誘導するメカニズム	25～26
新学術領域研究 (研究領域提案型)	第二生理学	教授	堀江 恭二	発現のオンとオフを繰り返す少数分子による ES 細胞の多能性の制御	26～27
基盤研究 (A)	地域健康医学	教授	車谷 典男	地域在住高齢者の QOL と生活機能の低下要因に関する大規模コホート研究	24～26
基盤研究 (B)	分子病理学	特任教授	高木 都	光る腸管神経の再生・新生機構の解明と制御	23～26
基盤研究 (B)	化学	教授	酒井 宏水	人工赤血球の酸素運搬機能時間を体内電子供与系の活用により飛躍的に延長させる	25～27
基盤研究 (B)	皮膚科学	特任教授	大崎 茂芳	合成繊維集合体の高強度化への革新的アプローチ	25～27
基盤研究 (B)	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	嗅球における匂い経験依存的な神経回路再編の分子機構	25～27
基盤研究 (B)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	肺高血圧—右心不全発症における新規 TMEM100 遺伝子の病態生理的意義の解明	25～27
基盤研究 (B)	小児科学	教授	嶋 緑倫	自己細胞移植による次世代型血友病 A 治療の創出	25～27
基盤研究 (B)	消化器・総合外科学	講師	山田 高嗣	臓器再生・移植医療を目指した iPS 腸管を用いた機能的臓器分化誘導法の開発	25～27
基盤研究 (B)	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	iPS 腸管作製技術を応用した難治性腸疾患に対する新たな腸管再生・移植医療への挑戦	25～27
基盤研究 (B)	第二解剖学	教授	和中 明生	淡蒼球アストロサイトの形態機能連関—パーキンソン病の新しい治療法開発にむけて—	26～28
基盤研究 (B)	病理病態学	教授	小西 登	ヒト前立腺癌始原細胞を用いた腫瘍進展メカニズムの解析と新規分子標的治療への応用	26～28
基盤研究 (B)	産婦人科学	教授	小林 浩	胎児期子宮内膜症発症説の実証と癌化機序の解明	26～28
基盤研究 (C)	第二内科学	教授	木村 弘	呼吸不全、肥満低換気症候群における急性増悪は低酸素化学感受性の低下が関与する	23～26
基盤研究 (C)	第三内科学	特任教授	藤村 吉博	妊娠中に特有な後天性・血栓性微小血管障害症の分子病態とその制御機構解析	23～26
基盤研究 (C)	NICU	教授	高橋 幸博	トロンボモジュリンによる重症新生児仮死治療の基礎的研究	23～26
基盤研究 (C)	中央手術部	助教	阿部 龍一	開頭手術における運動誘発電位モニタリングに関する検討	23～26
基盤研究 (C)	口腔外科学	研究員	村上 和宏	早期荷重インプラントにおけるオッセオインテグレーション獲得のための微小動揺の閾値	23～26
基盤研究 (C)	脳神経システム医科学	助教	高橋 弘雄	嗅球の神経回路新生を支える血管—神経相互作用の解析	24～26
基盤研究 (C)	看護学科 臨床病態医学	教授	濱田 薫	妊娠中の大気汚染曝露が次世代アレルギー疾患発症におよぼす環境影響評価と制御機構	24～26
基盤研究 (C)	看護学科 哲学	講師	池辺 寧	ハイデガーにおけるエートス論の展開と医学哲学への応用についての研究	24～26
基盤研究 (C)	分子病理学	研究員	藤井 澄	ヒストンリジン残基修飾による新たなエピジェネティクスの研究	24～27
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	市中で感染した MRSA の薬剤耐性および病原性解析とその治療戦略	24～26
基盤研究 (C)	第二内科学	准教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肺疾患に対する新規栄養療法の開発：進行抑制から発症予防までをめざして	24～27
基盤研究 (C)	第二内科学	助教	山本 佳史	慢性閉塞性肺疾患・表現型規定因子の探求—日米比較研究からの発信	24～26
基盤研究 (C)	小児科学	准教授	野上 恵嗣	第Ⅷ因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬への応用に関する基礎的研究	24～26

基盤研究 (C)	血栓制御医学	講師	松井 英人	凝固第Ⅶ因子抗体に対する自己血管内皮前駆細胞移植による新規免疫寛容導入療法の確立	24～26
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	講師	王寺 幸輝	In vitro 発毛システムを用いた発毛現象の解明と Wnt シグナルの役割について	24～26
基盤研究 (C)	皮膚科学	助教	宮川 史	GVHD モデルマウスにおける細胞障害性 T 細胞を制御する転写因子の同定	24～26
基盤研究 (C)	精神医学	教授	岸本 年史	統合失調症における補体制御因子機能とシナプスプルーニング機構解析	24～26
基盤研究 (C)	精神医学	研究員	森川 将行	主観的認知障害発症へのメタボリック症候群の影響に関する研究—高齢者コホート研究	24～26
基盤研究 (C)	精神医学	准教授	安野 史彦	脳梗塞後うつ病に対する客観的指標の確立	24～26
基盤研究 (C)	放射線医学	講師	田中 利洋	進行肺癌に対する IVR 技術を駆使した新規治療法の開発	24～26
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子 (下嶋典子)	HLA-F による免疫抑制法—制御性 T 細胞を 100% 残すアロ反応性細胞除去法の開発	24～26
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	庄 雅之	消化器癌における腫瘍特異的メモリー細胞能動的誘導法の開発	24～26
基盤研究 (C)	腫瘍センター	研究員	中村 信治	エリスロポエチンの炎症性腸疾患に対する新規治療の可能性	24～26
基盤研究 (C)	第二解剖学	助教	奥田 洋明	新規細胞外マトリックス DACS のアストロサイトおよび神経細胞における機能解析	24～26
基盤研究 (C)	整形外科科学	研究員	藤間 保晶	骨腫瘍に対する患肢温存を目的とした細胞活性を有した液体窒素処理骨移植法の開発	24～27
基盤研究 (C)	整形外科科学	講師	城戸 顕	担がん患者の骨微小環境の解析と間葉系幹細胞の病態への動的関与	24～26
基盤研究 (C)	スポーツ医学講座	教授	熊井 司	腱・靱帯付着部症に対する神経要素の動態とヒアルロン酸の治療効果に関する研究	24～26
基盤研究 (C)	泌尿器科学	研究員	石橋 道男	多発性嚢胞腎の細胞マトリックス接着応答とエピジェネティクス修飾による治療法の研究	24～26
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	重富 洋志	卵巣明細胞腺癌における DNA チェックポイント機構制御の解明と新規治療戦略の構築	24～26
基盤研究 (C)	MFICU	助教	金山 清二	卵巣明細胞腺癌の抗癌剤耐性克服による新規治療法の開発	24～26
基盤研究 (C)	眼科学	教授	緒方 奈保子	高齢者の視機能と眼疾患における全身因子および色素上皮由来因子の関与	24～26
基盤研究 (C)	眼科学	准教授	松浦 豊明	ハイドロゲルレンズフィル後の屈折、調節の評価	24～26
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	金廣 裕道	組織工学と多能性幹細胞の腸管分化誘導技術を融合した新しい腸管移植法の開発	24～26
基盤研究 (C)	総合医療学	准教授	西尾 健治	敗血症に対する ADAMTS13 の効果	24～26
基盤研究 (C)	口腔外科学	研究員	杉浦 勉	即時・早期荷重インプラントの周囲骨の治癒にオーバーロードが及ぼす影響	24～26
基盤研究 (C)	口腔外科学	准教授	山本 一彦	マイクロ RNA の制御を介した新たな口腔癌治療法の開発	24～26
基盤研究 (C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	上顎の形成過程における Wnt シグナリングの役割	24～26
基盤研究 (C)	看護学科 成人看護学	講師	石橋 千夏	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育プログラムの検討	24～28
基盤研究 (C)	看護学科 小児看護学	教授	川上 あずさ	自閉性障害児のきょうだいのもつ「まもり」に着眼した支援方法の構築	24～26
基盤研究 (C)	看護学科 公衆衛生看護学	准教授	奥田 真紀子	養育支援訪問事業における支援選択の指標開発—ニーズとアウトカムに着目して—	24～26
基盤研究 (C)	脳神経システム医科学	助教	吉原 誠一	新生嗅球介在ニューロンの神経回路再編機構の解明	25～27
基盤研究 (C)	第三内科学	研究員	浅田 潔	ピロリ菌感染により幹細胞レベルで誘発されるメチル化の同定	25～27
基盤研究 (C)	循環器システム医科学	助教	坂部 正英	心臓形態形成を制御する新規シグナル伝達ネットワークの解明とその意義	25～27
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	准教授	中村 ふくみ	トキソカラ症の実態解明—多彩な臨床像とその病態に関連する諸因子の基礎的検討—	25～27
基盤研究 (C)	中央手術部	学内講師	田中 優	周術期医療のクオリティ・インディケーターとしての麻酔満足度尺度の開発	25～27
基盤研究 (C)	放射線腫瘍医学	准教授	玉本 哲郎	がん放射線治療の均質化のためのモバイル遠隔教育システムの構築	25～27
基盤研究 (C)	法医学	教授	羽竹 勝彦	慢性アルコール投与ラットにおける血管反応性—アルコール誘発性突然死の観点から—	25～27
基盤研究 (C)	第一内科学	准教授	上村 史朗	光学ナノパーティクルによる単球標識と OCT を利用した不安定プラーク診断法の開発	25～27
基盤研究 (C)	第一内科学	助教	竹田 征治	可溶性 Flt-1 の CKD 関連心不全における役割と肺水腫発症抑制効果の検討	25～27
基盤研究 (C)	病理病態学	非常勤講師	中谷 公彦	糸球体腎炎に対する可溶性 α -Klotho 蛋白の新規治療薬としての有用性の検討	25～27
基盤研究 (C)	神経内科学	准教授	杉江 和馬	自己食空胞性ミオパチーにおけるオートファジー分子機構の病態関与の解明	25～27
基盤研究 (C)	産学官連携推進センター	特任助手	刀根 庸浩	アイレベルで測定した夜間照度・短波長暴露がメラトニン分泌および疾病に及ぼす影響	25～27
基盤研究 (C)	輸血部	教授	松本 雅則	造血幹細胞移植後の致死性疾患である血栓性微小血管障害症の新規診断法と治療法の開発	25～27
基盤研究 (C)	小児科学	教室職員	松本 智子	後天性凝固異常症における凝固機能評価と抑制メカニズムの解明	25～27
基盤研究 (C)	精神医学	講師	芳野 浩樹	社会経験依存的に発達する前頭前野の興奮性神経回路は治療の手がかりとなるか	25～27
基盤研究 (C)	法医学	非常勤講師	石谷 昭子	HLA-G の発現とその遺伝子型の移植片生着への影響について—急増する報告の検証—	25～27
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	コラーゲンゲル内での三次元培養による ES 細胞から心筋細胞への効率的な分化誘導	25～27
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	中川 一郎	Ischemic Postconditioning に関する電気生理学的検討	25～27
基盤研究 (C)	整形外科科学	研究員	村田 景一	再生医療技術を応用した血管付き人工骨による四肢偽関節の治療に関する研究	25～27
基盤研究 (C)	麻酔科学	助教	林 浩伸	心臓血管手術におけるレーザースパックル法による眼血流測定と術後視機能障害の検討	25～28
基盤研究 (C)	第二生理学	助教	松吉 ひろ子	排尿機能に対する末梢グリア（神経膠）細胞の作用	25～27
基盤研究 (C)	MFICU	助教	春田 祥治	内服可能な大豆タンパクペプチドによる卵巣がん分子標的抗腫瘍薬の開発	25～27
基盤研究 (C)	産婦人科学	学内講師	吉田 昭三	卵巣明細胞腺癌の細胞周期チェックポイント機構修飾による新規治療法の解明	25～27
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	耳鳴発生の分子機構の解明と新規治療法の模索	25～27
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	山中 敏彰	平衡リハビリテーションにおける感覚代行技術の実用化に向けた基礎研究	25～27
基盤研究 (C)	看護学科 成人看護学	教授	石澤 美保子	クリティカルケア領域における皮膚障害の予防および発生後ケアのためのプログラム開発	25～27
基盤研究 (C)	看護学科 公衆衛生看護学	准教授	入江 安子	妊婦の心理・社会環境要因と産後うつ、子どもの発達の困難さとの関連 コホート研究	25～29
基盤研究 (C)	放射線腫瘍医学	研究員	大西 武雄	宇宙放射線組成線種・重粒子線による DNA 損傷とその修復機構	25～27
基盤研究 (C)	第二内科学	学内講師	山内 基雄	OSAS の多様性に対応した個別化治療の構築—薬物療法の可能性の探索—	25～27
基盤研究 (C)	動物実験施設	准教授	久保 薫	シンバイオティクスによる慢性関節リウマチの予防・治療に関する研究	26～28
基盤研究 (C)	保健体育	准教授	石指 宏通	運動強度・時間・脱水量と血栓形成発生機序の関連性およびそれに及ぼす老化の影響	26～28

平成 26 年度 科学研究費補助金決定

基盤研究 (C)	第一生理学	講師	豊田 ふみよ	イモリ性フェロモン情報処理機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	薬理学	教授	吉栖 正典	伸展負荷による血管平滑筋細胞死の分子機構の解明と全く新しい大動脈解離予防薬の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	分子病理学	研究員	大森 斉	脂肪酸シグナルを標的とする癌幹細胞ターゲティングの検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	病理病態学	准教授	島田 啓司	尿路上皮癌における新規癌進展メカニズムの解析	26 ~ 28
基盤研究 (C)	健康政策医学	学内講師	岡本 左和子	患者の医療リスクの理解と納得のための要因と行動変容までのプロセスに関する研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第三内科学	准教授	吉治 仁志	肝前駆細胞と既存薬剤を用いた肝疾患進展抑制治療法の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第三内科学	助教	野口 隆一	NASH の発症進展に関わる生活習慣病態と凝固線溶系を標的とした新規治療の確立	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第一内科学	助教	尾上 健児	メッセンジャー RNA 投与による新たな心筋症治療法の開発と評価	26 ~ 28
基盤研究 (C)	薬理学	准教授	小澤 健太郎	パーキンソン病の関連タンパク質に対する酸化修飾のパーキンソン病発症における役割	26 ~ 29
基盤研究 (C)	小児科学	助教	武山 雅博	APC 及び PS による第 VIII 因子制御機構の解明及び新規血友病 A 治療薬の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	小児科学	助教	志田 泰明	血管内皮細胞による血流応答機構の解明および新規血栓止血制御戦略の構築	26 ~ 28
基盤研究 (C)	NICU	教授	高橋 幸博	低酸素性虚血性脳症に対する新規トロポモジュリンによる脳保護作用の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	皮膚科学	准教授	小林 信彦	酸化的 DNA 損傷サイクロプリンによる色素性乾皮症の神経症状・UVA 発癌とその予防	26 ~ 29
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	ウイルス由来ケモカイン受容体に着目した DIHS における HHV6 再活性化機序の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	放射線医学	助教	西尾 福 英之	MRI 分子画像を用いたナノ DDS による体内動態の解明から治療効果早期診断への応用	26 ~ 28
基盤研究 (C)	中央放射線部	准教授	田岡 俊昭	非正規分布拡散画像 (拡散強度画像) によるアルツハイマー病の病期診断および予後予測	26 ~ 28
基盤研究 (C)	放射線医学	非常勤講師	阪口 浩	進行肝細胞癌に対する薬剤溶出性ビーズを用いた新規肝動脈塞栓術の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	救急医学	非常勤講師	藤岡 政行	クモ膜下出血後の遅発性脳虚血に対する ADAMTS13 の新規脳保護機能の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	悪性神経膠腫に対する抗てんかん薬を中心とする新規併用療法の開発と臨床応用	26 ~ 28
基盤研究 (C)	整形外科	准教授	面川 庄平	骨形成細胞シートを併用した骨延長術の有用性に関する実験的研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	麻酔科学	講師	瓦口 至孝	全身麻酔薬が糖尿病環境下にある癌細胞の増殖能に与える影響	26 ~ 28
基盤研究 (C)	麻酔科学	教授	川口 昌彦	非眼科的手術後の眼合併症の発生状況とその誘因に関する検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	千原 良友	膀胱内環境に生じるがん幹細胞シグナル異常の解明と膀胱癌診断マーカーの開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	病理病態学	助教	藤井 智美	ヒト前立腺癌に発現する特異性の高い microRNA の有用性についての検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	産婦人科学	准教授	大井 豪一	羊水特異マーカー SCC を用いた母体への羊水流入の影響に関して	26 ~ 28
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	棚瀬 康仁	癌幹細胞マーカー CD44v9 を標的とした難治性卵巣がんの治療戦略	26 ~ 28
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	古川 直人	卵巣明細胞癌に対する新たな転写因子・セリンプロテアーゼ系マーカーの有用性	26 ~ 28
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	西村 忠己	軟骨伝導補聴器の音伝導効率の向上に関する研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	太田 一郎	頭頸部癌における糖代謝異常と EMT シグナル活性化に伴う癌浸潤・転移機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	集中治療部	准教授	井上 聡己	脳蘇生におけるアミオダロンの脳保護効果に関する研究	26 ~ 29
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	笹平 智則	新規口腔癌関連遺伝子による新たな血管・リンパ管新生機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	口腔外科学	研究員	村上 和宏	即時・早期荷重インプラントの骨結合獲得のための微小動揺の閾値と荷重開始時期の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	口腔外科学	研究員	梶原 淳久	BRCA2 の DSB を介した温熱誘導細胞死における修復経路の選択機構の解明	26 ~ 28
挑戦的萌芽研究	第一生理学	講師	和田 佳郎	「耳石器の特性」を応用した平衡障害リハビリテーション装置の開発	24 ~ 26
挑戦的萌芽研究	皮膚科学	特任教授	大崎 茂芳	繊維集合体における隙間のないユニークなパッキング構造化の研究	24 ~ 26
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	助教	常見 泰平	子宮頸管粘液を用いた新規妊娠高血圧症候群予知マーカーの開発	24 ~ 26
挑戦的萌芽研究	英語	准教授	吉田 泰彦	Charles Lamb のロマン主義作家としての位置付けを見直しする	25 ~ 27
挑戦的萌芽研究	物理学	准教授	藤本 雅文	八頂点模型における弱い普遍性と双有理幾何学	25 ~ 26
挑戦的萌芽研究	第二生理学	教授	堀江 恭二	レトロエレメントの制御因子の解析を基盤とした ES 細胞の未分化性維持機構の解明	25 ~ 26
挑戦的萌芽研究	分子病理学	教授	國安 弘基	癌幹細胞のゆらぎを生体内で観察する	25 ~ 26
挑戦的萌芽研究	化学	准教授	山本 恵三	立体構造情報に基づいた CTX-M 型 β -ラクタマーゼの基質特異性拡張機構の解明	25 ~ 27
挑戦的萌芽研究	県民健康増進支援センター	特任講師	富岡 公子	化学物質摂取労働者の複合曝露による発癌リスクに関する歴史的コホート研究	25 ~ 27
挑戦的萌芽研究	循環器システム医科学	教授	中川 修	新しい手法による新規内皮特異的遺伝子の心血管発生における意義の解析	25 ~ 26
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	教授	小林 浩	羊水特異物質を用いた羊水塞栓症診断法の開発	25 ~ 26
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	助教	赤坂 珠理晃	難治性卵巣明細胞癌がんに対する DNA 修復異常に着目した薬剤耐性の克服	25 ~ 26
挑戦的萌芽研究	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	In vitro 内耳発生システムの開発と Wnt シグナルによる内耳発生機序の解明	25 ~ 26
挑戦的萌芽研究	組換え DNA 実験施設	准教授	杉浦 重樹	損傷のタイプに応じて修復を亢進させる損傷特異的人工エンドヌクレアーゼの開発	26 ~ 27
挑戦的萌芽研究	RI 実験施設	研究教授	森 俊雄	色素性乾皮症 A 群患者における進行性神経障害の機構解析	26 ~ 28
挑戦的萌芽研究	第一解剖学	教授	西 真弓	長残光蛍光体ナノ粒子を用いた癌細胞の無励起光型バイオイメージング	26 ~ 27
挑戦的萌芽研究	分子病理学	特任教授	高木 都	軽度な脊髄損傷の新規薬物治療法の開発	26 ~ 27
挑戦的萌芽研究	第二生理学	教授	堀江 恭二	ハプロイド ES 細胞を用いた iPS 細胞生成過程の制御因子の探索	26
挑戦的萌芽研究	第一解剖学	講師	秦野 修	ステロイドホルモンの質量分析イメージングによる組織細胞上の直接可視化法の開発	26 ~ 28
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	研究員	岩井 加奈	新規蛍光プローブの化学的ナビゲーションを応用した子宮頸癌円錐切除範囲の決定	26 ~ 27
挑戦的萌芽研究	形成外科センター	准教授	桑原 理充	コラーゲン線維の配向性を考慮した科学的皮膚移植術への挑戦	26 ~ 27
若手研究 (B)	健康政策医学	講師	野田 龍也	小児におけるうがいと感染症の予防に関する実証研究	23 ~ 26
若手研究 (B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	山下 哲範	骨導超音波補聴器の実用化に向けた語音聴力の検討	23 ~ 26
若手研究 (B)	地域健康医学	特任講師	大林 賢史	メラトニン関連サーカディアン血圧変動に対する光曝露および ADMA の影響	24 ~ 26
若手研究 (B)	RI 実験施設	研究助教	岩本 顕聡	色素性乾皮症 A 群患者の神経障害に及ぼす酸化的 DNA 損傷サイクロプリンの役割	24 ~ 26

若手研究 (B)	小児科学	助教	榊原 崇文	小児難治性てんかんにおける脳形成異常発生病態解明のための生物化学的研究	24 ~ 26
若手研究 (B)	脳神経外科学	助教	竹島 靖浩	内在性神経幹細胞を利用した脳静脈虚血治療の研究	24 ~ 26
若手研究 (B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	下倉 良太	新しい音伝導ルート（軟骨伝導）を用いた両耳装用補聴器の開発	24 ~ 26
若手研究 (B)	口腔外科学	研究員	柳生 貴裕	乳歯歯髄由来細胞による唇顎口蓋裂患者の顎裂治療	24 ~ 27
若手研究 (B)	看護学科 基礎看護学	講師	升田 茂章	前立腺全摘出術後患者と家族への排尿障害とセクシュアリティの看護ガイドラインの開発	24 ~ 26
若手研究 (B)	整形外科科学	助教	重松 英樹	脊髄損傷患者におけるロボットスーツを用いた超急性期からのリハビリテーション介入	25 ~ 26
若手研究 (B)	生化学	助教	山内 晶世	脾β細胞の再生増殖におけるヒト REG ファミリー遺伝子の役割の解明	25 ~ 26
若手研究 (B)	免疫学	教授	伊藤 利洋	インフルエンザウィルス感染に対する新たな治療戦略樹立を目指したメカニズムの解明	25 ~ 26
若手研究 (B)	地域健康医学	講師	佐伯 圭吾	皮膚温 DPG のサーカディアンリズムと血圧・糖脂質代謝・睡眠に関する大規模疫学研究	25 ~ 27
若手研究 (B)	輸血部	教室職員	吉田 瑤子	補体調節因子系の解析システムの構築とこれを用いた非典型溶血性尿毒症症候群の診断	25 ~ 26
若手研究 (B)	地域医療学	特任助教	矢田 弘史	インヒビター保有血友病 A 患者の新たな止血治療戦略における凝血学的基礎研究	25 ~ 26
若手研究 (B)	精神医学	助教	松田 康裕	統合失調症患者に対する認知機能リハビリテーション用ソフトの効果検討	25 ~ 26
若手研究 (B)	精神医学	助教	太田 豊作	近赤外線スペクトロスコピーを用いた統合失調症発症予測因子の検討	25 ~ 27
若手研究 (B)	消化器・総合外科学	研究員	植田 剛	多能性幹細胞からの誘導腸管への血管新生能の評価：拒絶のない腸管移植の開発にむけて	25 ~ 26
若手研究 (B)	脳神経外科学	助教	田村 健太郎	焦点切除術における高周波振動を含むセパロラン賦活術中皮質脳波の有用性	25 ~ 26
若手研究 (B)	泌尿器科学	助教	穴井 智	光力学診断を応用した去勢抵抗性前立腺癌の予後予測	25 ~ 26
若手研究 (B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	研究員	岡安 唯	モルモットを用いた骨導超音波聴覚の知覚メカニズムと音響負荷の影響についての研究	25 ~ 27
若手研究 (B)	法医学	助教	粕田 承吾	iPS 細胞を用いた敗血症の病態解明および新規治療法の創出	25 ~ 26
若手研究 (B)	口腔外科学	助教	堀田 聡	即時荷重インプラントにおいて骨結合を阻害する微小動揺の閾値の解明	25 ~ 27
若手研究 (B)	口腔外科学	助教	山川 延宏	口腔がんにおける酸素中性子捕捉療法後の細胞死メカニズムの解明	25 ~ 27
若手研究 (B)	口腔外科学	助教	青木 久美子	抗癌剤による味神経障害に起因する味覚障害の発生機序の解明と治療法の開発	25 ~ 26
若手研究 (B)	口腔外科学	研究員	玉置 盛浩	口腔がんに対するγδ T 細胞と MICA 遺伝子に関連した免疫細胞療法の検討	25 ~ 26
若手研究 (B)	第一解剖学	助教	堀井 謹子	新規視床下部デルタ神経核の生理機能解析	25 ~ 26
若手研究 (B)	総合医療学	助教	吉本 清巳	変形性膝関節症用硬性装具、CB プレースの効果に関する研究	25 ~ 26
若手研究 (B)	看護学科 公衆衛生看護学	助教	前屋敷 明江	食品と花粉飛散量の組み合わせによるアレルギー症状の増強因子に関する研究	26 ~ 28
若手研究 (B)	化学	助教	松平 崇	配置を精密に制御した高分子量ヘモグロビン集合体（人工酸素運搬体）の創製	26 ~ 28
若手研究 (B)	物理学	講師	高木 拓明	細胞運動のゆらぎから探るロバストな細胞情報処理機構	26 ~ 28
若手研究 (B)	第二解剖学	助教	森田 晶子	生体恒常性維持のための感知系脳室周囲器官における血管リモデリングメカニズム	26 ~ 27
若手研究 (B)	薬理学	助教	京谷 陽司	睡眠時無呼吸患者における心血管病発症・進展メカニズムの解明	26 ~ 27
若手研究 (B)	健康政策医学	講師	野田 龍也	インターネット依存症：日本におけるスクリーニングテストの開発	26 ~ 28
若手研究 (B)	第三内科学	助教	北出 光輝	NOTCH1 選択的阻害による新たな肝再生療法の可能性	26 ~ 28
若手研究 (B)	精神医学	助教	鳥塚 通弘	iPS 細胞を用いた培養系・移植実験による統合失調症の神経細胞病態解明	26 ~ 27
若手研究 (B)	消化器・総合外科学	研究員	右田 和寛	ユビキチン修飾系を標的とした新たな癌治療法の臨床導入を目的とした研究	26 ~ 27
若手研究 (B)	消化器・総合外科学	研究員	安田 里司	獲得免疫による再発予防を目指した T 細胞不活化制御による新規機学的治療戦略の開発	26 ~ 27
若手研究 (B)	脳神経外科学	助教	松田 良介	超免疫不全マウスを用いた膠芽腫に対する免疫細胞化学療法の開発	26 ~ 27
若手研究 (B)	整形外科科学	研究員	清水 隆昌	広範囲骨欠損に対する骨形成細胞シートと血管束移植を用いた新規骨再建法確立の試み	26 ~ 28
若手研究 (B)	麻酔科学	助教	西和田 忠	ミノサイクリンが発達段階の脳における全身麻酔薬の神経毒性を抑制できるか？	26 ~ 28
若手研究 (B)	分子病理学	助教	羅 奕	膀胱癌における新規抗癌療法：抗酸化ストレスとメチル化阻害剤による抗腫瘍効果の検討	26 ~ 27
若手研究 (B)	泌尿器科学	助教	井上 剛志	がん幹細胞と上皮間葉転換による膀胱上皮内癌の BCG 療法抵抗性の解明	26 ~ 27
若手研究 (B)	泌尿器科学	助教	三宅 牧人	膀胱癌微小環境中の CXCL1 発現と尿中 Exosome 内 CXCL1 検出の臨床応用	26 ~ 27
若手研究 (B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	山下 哲範	骨導超音波を用いた新しい耳鳴マスカー療法の検討	26 ~ 28
若手研究 (B)	口腔外科学	研究員	前田 雅彦	ラット下顎骨顎裂モデルを用いた骨芽細胞シートの顎骨再生に関する基礎的研究	26 ~ 28
若手研究 (B)	口腔外科学	研究員	栗原 都	MIA gene family シグナルによる口腔癌の診断・治療の新展開	26 ~ 27
若手研究 (B)	看護学科 成人看護学	助教	佐竹 陽子	救急領域における終末期ケアに対する看護師の態度とその実践に関する研究	26 ~ 27
奨励研究	皮膚科学	教室職員	御守 里絵	分子標的治療薬が表皮自然免疫に及ぼす影響に着目した蕁麻疹の病態解明	26
奨励研究	眼科学	社会人学生	辻中 大生	最終糖化産物は加齢黄斑変性の病型決定因子となりうるか	26
特別研究員奨励費	第一解剖学	(特別研究員)	笹川 誉世	幼少期ストレスによる食物嗜好性神経回路の可塑性変化の解明	26 ~ 28

日本学術振興会特別研究員に採用について

第一解剖学の大学院生 笹川誉世さんが、独立行政法人日本学術振興会が募集した平成 26 年度採用分特別研究員 (DC1) に採用されました。特別研究員制度は、我が国トップクラスの優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度です。笹川さんには本学（受け入れ研究者：医学部・教授・西真弓）で研究に専念できるよう平成 26 ~ 28 年度の 3 年間研究奨励金が支給されます。採択率 23.7% の難関を突破しての採用であり、益々の研究の発展が期待されます。

研究紹介

私の研究歴

英語 教授 澤浦 博



私は1975年に京都大学大学院文学研究科に入学して、当時おられた菅教授と喜志助教授の指導を受け、イギリス演劇、特にシェイクスピアの研究を開始しました。

1978年に山口大学教養部助手として採用され、やがて講師に昇格して過ごした7年間は、主としてシェイクスピアの歴史劇と喜劇の研究を行ないました。具体的には、『Richard III』における演技と道徳的視点(1979年)では、観客は主人公の悪魔的な視点からのみならず、道徳的な観察者の視点からも眺めるのだということを論じました。『リチャード二世』の挽歌的印象(1982年)においては、シェイクスピアはリチャードの悲運を、単に伝記的方法や、運命の輪の回転による王侯の没落という中世的悲劇の図式で描いたのではなくて、挽歌風にも描いたのだと考えました。また、『十二夜』における愛と欺瞞(1)(1983年)および『十二夜』における愛と欺瞞(2)(1984年)においては、作品構成上の著しい特色である主筋と脇筋との対照性に着目し、作者の脇筋創作意図に論及しました。

1985年に京都工芸繊維大学工芸学部へ転任後も、シェイクスピアの喜劇に興味を抱き、『十二夜』における類似と対照(1987年)では、類似と対照の技法が劇中で如何に効果的に使用されているかを考察しました。やがて、シェイクスピアのロマンティック喜劇から問題劇に関心を寄せるようになり、『終わりよければすべてよし』における類似と対照(1988年)および『終わりよければすべてよし』の大団円(1989年)を発表しました。1990年には、『尺には尺を』における類似と対照を執筆しました。次いで、『尺には尺を』における道徳教育(1992年)においては、作品の究極の主旨を論述し、『終わりよければすべてよし』における喜劇的復讐(1993年)では、劇の大詰めで生じた解釈上の論議に若干の考察を試みました。

1992年に大阪女子大学に助教授として転勤後は、まずシェイクスピアのロマンス劇に焦点を合わせました。“The Quasi-Miraculous Reunion in The Winter's Tale”(1995年)と「信頼のロマンス劇『冬物語』」(1997年)においては、作者の創作意図と、テーマを浮き彫りにする主要人物たちの役割と特徴とを考察しました。『ペリクリーズ』の統一(1998年)では、この作品を、

シェイクスピアがロマンス劇という新しい演劇様式を模索する実験段階にある道徳劇的アレゴリーであると解釈しました。“The Emphatic Contrast in Timon of Athens”(1999年)においては、この劇の前半と後半とで強調されるコントラストの効果を吟味し、謎めいた人物である主人公に対する作者の態度について論じました。

1997年にバーミンガム大学シェイクスピア研究所で3ヵ月間、研修させていただき、シェイクスピアの故郷、ストラットフォード・アポン・エイヴオンで貴重な思い出となる日々を過ごしました。その後、当時の文部省から援助を得て、1999年から1年間オックスフォード大学で在外研究を行なう機会に恵まれました。この時、本場でのイギリス文学研究に触れ、大いに啓発されました。そして、シェイクスピア以外のイギリスの劇作家にも目を向けるようになり、2000年には、『恋敵』—シェリダンの「恋の骨折り得」、次いで2001年には、『屈して勝つ』—ゴールドスミス流喜劇の処方箋を執筆しました。

2002年に、奈良県立医科大学に英語教授として着任してからも、なお数年間イギリス演劇、特に風習喜劇の研究に励みました。『田舎女房』に見る笑劇としての結婚(2003年)では、作者ウィッチャリーが標的にした王政復古期の社会と当時の政略結婚に対する風刺について考察しました。また、『田舎女房』におけるホーナーの役割(2003年)においては、主人公の意味深い役割について詳述しました。

これ以後は、医学英語の語法研究に勤しみ、「BBC NEWS ONLINE Medical notes に見る医学英語の活用例(1)、(2)、(3)、(4)」(2006-2009年)、「英語の医療情報に見る形容詞句の活用例」(2011年)、「英語の医療情報に見る動詞句の活用例」(2012年)等を書き、現在に至っています。

産学官連携だより

■産学官連携推進センターの組織が変わりました

産学官連携推進センター長に、本年4月より研究部長の嶋緑倫教授（小児科学教室）が就任し、本学職務発明などの審査を行う「発明等専門部会」の部会長も兼務します。また、研究推進課の産学官連携推進係長として鉄村仁が着任しました。今後の産学官連携推進に対し、引き続き皆様のご協力・ご支援を宜しくお願いします。

■薬事法の改正について

（本項は（公財）京都産業21発行リーフレットより一部引用）

従来の薬事法が改正され、「（略称）医薬品医療機器等法」が昨年11月27日に国会で公布され、本年11月下旬までに施行されます。6月1日現在、政令や省令は開示されておられません以下にその改正の概要をお知らせします。

1) 主な改正のポイント

改正のポイント①：

新たに「再生医療等製品」が加わり5つとなります。

従来の薬事法は「医薬品」の他、「医薬部外品」、「化粧品」、「医療機器」の4種を規制する法律でしたが、新たに「再生医療等製品」が加わり5つを対象とすることになります。「再生医療等製品」の例としては、軟骨再生製品（細胞を使って身体の構造等の再建等を行うもの）、癌免疫製品（細胞を使って疾病の治療を行うもの）、遺伝性疾患治療製品（遺伝子治療を行うもの）などが該当します。

また、医療機器は人体へのリスクに応じて国際分類クラスⅠからⅣに分類されています。クラス分類にはⅠ（一般医療機器）、Ⅱ（管理医療機器）、Ⅲ、Ⅳ（高度管理医療機器）があります。高度管理医療機器がこれまで大臣認証（独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）で審査）となっていました、クラスⅢであっても一部の医療機器は第三者認証可能な医療機器となります。今後、PMDAは革新的な医療機器の審査に集中することになります。

改正のポイント②：

新たに医療機器として「単体プログラム」が加わります。

単体プログラムとは、汎用PC等にインストールすることで、医療機器として性能を発揮するプログラムを指します。例えば、MRI等で撮影された画像データの処理、保存、表示等を行うプログラムが該当します。これまで、ソフト部分のみでは薬事法の規制対象とならず、ハード部分に組み込んだ形で規制していましたが、改正後には、単体プログラムは新

たな規制対象となります。欧米ではすでに医療機器として位置づけられているようです。

改正のポイント③：

「再生医療等製品」に「条件および期限付き承認制度」が導入されます。

ヒトの細胞を用いるため製品の品質が不均一になったり、多くの症例が集まらないなどを考慮し、症例数が少なくても治療で有効性が推定され、安全性が確認できれば条件付きで早期承認し、有効性・安全性の検証は承認後に改めて行う制度が導入されるものです。

改正のポイント④：

医薬品、医療機器等に係る安全対策の強化が図られます。

法の目的に、「保健衛生上の危害の発生・拡大防止のため必要な規制を行う」ことが加わります。医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保等に係る責務を関係者に課すること。さらに、医薬品等の製造販売業者は、最新の知見に基づき添付文書を作成し、厚労大臣に届け出る必要があります。

2) その他の改正

本稿が掲載の時期には実施されていると思われますが、一般用医薬品のインターネット販売が可能となります（6月12日施行）。さらに、違法ドラッグの取り締まりが強化され、指定薬物について、学術研究等を除き、その所持・使用等が禁止され、違反した場合は、罰則が科せられます（4月1日施行）。

■日本医療研究開発機構（仮称）について

国の医療分野の研究開発に関する総合戦略が進められています。その実行方策の一つに新たな独立行政法人「日本医療研究開発機構（仮称）」が創設される準備が進んでいます。その骨子は以下の点です。

- ①研究開発型の法人となります。
- ②学術研究の成果を科学技術イノベーションに資する研究につなげていくため、日本学術振興会（JSPS、科研費を扱う独法）との連携が強化されます。
- ③科学技術振興機構（JST）、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、医薬基盤研究所（国立健康・栄養研究所と統合予定）などが実施してきた医療分野の研究開発に係るファンディング機能は、所要の人員も含め日本医療研究開発機構（仮称）に移管されます。



医療倫理講習会の開催のご案内

来る8月18日（月）に医療倫理講習会を開催します。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針」に規定されている“研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。”の一環として行うものです。

なお、医の倫理委員会への審査申請においても、受講歴が必要となります。また「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」（GCP省令）における治験責任医師等の教育・

訓練にもなるものです。

※時間等については別途お知らせします。

開催場所：基礎研究棟 1階講義室

**講師：米田泰邦法律事務所・
大阪大学治験審査委員会委員
弁護士 鶴飼 万貴子 先生**

**講演内容：「IRB委員の経験からみた、
研究者に求められる倫理」**

日本助産師会会長賞を受賞しました

母性看護学 准教授 中西 伸子

このたび、大阪府助産師会を代表して日本助産師会会長賞をいただきました。大変光栄であるとともに、地域での地道な活動を認めていただけたのかなとうれしく思っております。私は、東大阪支部で、副支部長を務めて9年目となります。会員は、教員のほかに、開業、病院勤務、訪問指導専門と多岐にわたり、育児中のメンバーも含め、できるときにできることをモットーに活動しています。主な事業は、小・中・高校生を対象とした命の教育、性感染症予防セミナー、更年期女性への健康支援、パパママ教室、孫育て教室、乳がん予防教室等です。私の活動拠点は、居住地の東大阪ですが、7年前に職場が奈良医大になってからは、少しずつ、奈良県の女性健康支援にも協力させていただいています。教職員対象の更年期セミナー、養護教諭を対象とした思春期教育セミ

ナー、橿原市主催の女性健康教室も3回目を迎えます。

24年度から、奈良医大での助産師教育が大学院教育となりました。大学院教育では、より高度で幅広い実践教育が求められています。学生は、毎年、助産学実習で母児の命にかかわる大変さを実感します。そして、実習経験を通して、より良いお産や母子の幸せのためには、女性のライフサイクルすべてにかかわっていかなくてはならないと学びます。その大切さと実際に学生に伝えていながら、今後も大学院教育と助産師活動を続けていきたいと思っております。



受賞された中西准教授

第49回小島三郎記念技術賞を受賞しました

小児科学教室の教室職員（博士研究員）の松本智子氏が「凝固機能評価法の確立と後天性凝固因子インヒビターにおける制御メカニズムの解明」の研究業績により第49回小島三郎記念技術賞に決定され、平成26年5月30日に東京都で開催された贈呈式において受賞されました。

小島三郎記念技術賞は、1966年から、臨床検査ならびに衛生検査領域において優れた検査方法、術式の考

案改良を行い、検査技術の普及発展に貢献のあった者に公益財団法人、黒住医学研究振興財団より贈呈される賞です。



受賞された松本氏(左)と
教室主任の嶋教授

第21回 中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

5月22日(木)、臨床第一講義室において、中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました。

今回の受賞者は、病原体・感染防御医学の王寺幸輝講師、小児科学の武山雅博助教、第三内科学の野口隆一助教の三名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

引き続き実施された受賞者講演会では、受賞研究テーマに沿って、王寺講師が「皮膚および附属器官におけるシグナル伝達の解析と発毛再生医療への応用」、武山助教が「プロテインCおよびプロテインSによる凝固第Ⅷ因子の制御機構の解明および新規血友病治療製剤への応用」、野口助教が「慢性肝疾患におけるレニン・アンギオテンシン・アルドステロン系のクロストーク」と題して講演されました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を

財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしています。



後列：左より推薦者の嶋教授、吉川教授、福井教授
前列：左より武山助教、王寺講師、車谷副学長、野口助教

平成 26 年度 厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました

6月21日(土)、厳樞会館3階大ホールで開催された奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、平成26年度厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました。

今回の受賞者は、眼科学講座の小島正嗣助教で、同窓会会長・小味渕智雄氏より、代理出席された中尾重哉医員に賞状と副賞の海外留学助成金が授与されました。小島助教は、平成25年4月1日～平成27年3月31日まで、アメリカの Johns Hopkins 大学医学部 Wilmer Eye Institute に留学中であり、加齢黄斑変性や糖尿病網膜症、網膜変性などの網膜疾患の病態解明および新規治療法に対する研究を行われています。

この賞は、奈良県立医科大学医学部医学科同窓会が、その目

的たる母校の発展の一助とするため、海外において学術の研究、調査等に従事する者に対し、その費用の一部を海外留学助成金として支給しているものです。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、積極的な応募をお待ちしています。

小味渕会長より、代理出席された中尾医員へ表彰の授与



特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が決まりました

本学の研究の一層の推進を目指して昨年度から始まった特別共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、下記の研究が採択されました。

特別共同研究助成事業には8件の応募があり、第一解剖学西教授、放射線医学田中講師及び脳神経システム医科学坪井教授が代表研究者である共同研究が採択され、西教授に400万円、田中講師、坪井教授にはそれぞれ300万円が助成されます。

また、若手研究者助成事業には9件の応募があり、今年度は全部が採択され、それぞれ50万円が助成されます。

特別共同研究助成事業 採択者一覧

代表研究者			研究課題名	共同研究者
所属名	職	氏名		
第一解剖学	教授	西 真弓	長残光蛍体ナノ粒子を用いた癌細胞の無励起光型バイオイメージング	健康政策医学：今村教授・赤羽准教授 整形外科：田中教授・城戸講師・清水医員・奥田大学院生 第一解剖学：堀井助教
放射線医学	講師	田中 利洋	脾悪性腫瘍に対する新たな集学的治療法の開発	消化器・総合外科学：中島教授・庄准教授・美登呂講師 放射線医学：吉川教授、放射線腫瘍医学：玉本准教授 腫瘍センター：神野准教授、病理診断学：大林教授
脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	成体脳における神経回路の恒常性維持機構の解明と脳神経疾患療法の創出	脳神経システム医科学：吉原助教・高橋助教・藤岡博士研究員 脳神経外科学：中瀬教授、中央放射線部：田岡准教授

若手研究者研究助成事業 採択者一覧

代表研究者			研究課題名
所属名	職	氏名	
消化器・総合外科学	診療助教	山戸 一郎	ALKBH family (DNA, RNA修復酵素) を標的とした難治性固形癌に対する新規治療法の開発
内科学第三講座	助教	守屋 圭	自己免疫性肝炎に対する新規治療法の確立を目指す基礎的研究～脾摘除の有効性について～
精神医学	助教	牧之段 学	前頭前野機能形成以後の社会的経験の影響についての解析
中央放射線部	主査	藤谷 信将	寡分割・大線量照射における Linear Quadratic モデルの病理組織学的検討
生物学	講師	小林 千余子	刺胞動物を用いた細胞接着機構の分子的、機能的進化に関する研究
内科学第三講座	助教	浪崎 正	進行肝臓に対する薬剤耐性因子発現に基づく新規治療法およびバイオマーカーの開発
放射線腫瘍医学	助教	片山 絵美子	頭部皮膚血管肉腫の新たな電子線照射法の確立
地域健康医学	講師	岡本 希	地域在住高齢者における歯牙喪失と認知機能との関連についての症例対照研究
看護学科小児看護学	講師	山田 晃子	適切な受診タイミングの実行に向けた、乳幼児の発熱時における親の受診行動と関連要因の解明

JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 「いのちを支える医理系の研究って、やってみたい!」を開催します

独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が企画提案募集を行った「平成26年度 女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に女性研究者支援センターの企画提案「いのちを支える医理系の研究って、やってみたい!」が採択されました。

このプログラムでは、女子中高生を対象に、「いのちを支える」医理系分野の多様さ、研究の面白さを紹介し、医理系進路選択への理解を深めてもらうためのイベントを全5回実施します。イベントでは、女性研究者による講演のほか、実験や医療検



査・手技の体験、サイエンスカフェでのディスカッションなどを行います。ご興味がある方は、ぜひ女性研究者支援センターにお問い合わせください。(内線：2525)

【対象】中学校、高等学校の女子生徒
【定員】女子中・高校生の方 30名/回
※保護者・教員の見学も可能

【参加費】無料
【開催場所】奈良県立医科大学
【開催日程・プログラム】

〈第1回〉7月22日(火) 「あなたは重力を感じていますか？」
〈第2回〉8月19日(火) 「あなたを守るミクロの戦士」
〈第3回〉9月7日(日) 「外科医になってみよう!」
〈第4回〉10月26日(日) 「内科医のオシゴト」
〈第5回〉11月30日(日) 「ドキドキバクバク測ってみよう!」

平成 26 年度看護功労者知事表彰を受賞されました

～当院から 3 名の方が受賞されました。

おめでとうございます～

〈受賞者からひとこと〉

5 月 10 日 (土) かしはら万葉ホールにて私たち 3 人は平成 26 年度看護功労者知事表彰を受賞させていただきました。

看護師を志し看護学校に入学、戴帽式で頭に被せて貰ったナースキャップに胸躍らせ、ナイチンゲール像から手元に手渡された灯に感動した事は今でも忘れられない思い出として残っています。今思えば、これが私たちの看護の原点とも言えるでしょうか。晴れて看護師免許を手にした日から看護師として今日まで長い年月働いてこれた事は、私たちを取り巻く家族や友人の支えそしてなにより患者さんに活かされていたからだと思い、その方々すべてに感謝したいと思います。今後も、自らの経験を後輩育成、患者さ

んへの看護実践に繋げていければと考えています。

折しも、「看護の日」に受賞させていただいた事を何かの導きと思いこれからも感謝の気持ちを忘れず初心に振り返り看護師として誇りを持って働いていきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

藤本恵子、横山百合子、西清子



写真左から
藤本恵子主査
(C病棟5階)
西清子主査
(A病棟7階北)
横山百合子主任
(外来1階)

活躍する専門看護師

急性・重症患者看護専門看護師 C 病棟 3 階 (集中治療部) 辻本 雄大

平成 25 年 4 月より、C 病棟 3 階に所属し、急性・重症患者看護専門看護師の認定を受けました。集中治療領域では、医学の進歩とともに治療や看護も益々高度化、複雑化しています。また、多職種が多く関わる分野でもあります。そのような中で、患者さん中心であることを前提として医療チーム全体が一つの目標に向かうことが大切です。専門看護師は、そのような複雑で高度な問題を解決に導き、かつチーム医療を推進する役割を期待されています。まだまだ、若輩者ですが、病棟スタッフの皆様と協働し、助け合いながら活動していきたいと思います。

加えて、集中治療領域では、生存率や死亡率の改善だけ

でなく、長期予後や QOL の改善を視野にいたした医療の提供が急務となっています。近年、たとえ生命危機を回避することができても、退院後の社会復帰遅延、鬱や PTSD などの精神疾患の罹患、QOL・ADL の低下などが報告されています。集中治療部での関わりは、日数だけを見ると僅かかもしれませんが、その後の患者さんや家族の人生に大きな影響を及ぼすことを理解し、長期的なアウトカムを達成できるように尽力したいと思います。



(病院管理課)

精神医療センターデイケア紹介

精神医療センターでは、精神科通院中の患者さんを対象に、週 4 日、9 時から 15 時でデイケア「まほろば」を開所しています。

これまで、ショートケアとして週 4 日午前中のみ運営してまいりましたが、この 5 月からは看護師が、6 月からは作業療法士が専従となり大規模デイケアの稼働が始まりました。また、新たに外部講師 (太極拳・俳画教室) を迎えるなど、プログラムの充実を図っています。

「まほろば」の特徴は、若年層を対象に、それぞれが希望する社会復帰を実現することを目標に置く、短期通過型デイケアであるということです。プログラムとしては、デイケア導入期には個別作業を中心に、場に慣れ人に慣れることから始め、個々の状態により徐々に集団活動へ拡大していきます。そして、最終的にはプログラム運営に係活動を通じて従事し、より主体的に活動へ参加しながら、自身の

長所短所を把握してもらいます。このようにして人格の成長を促し、デイケア卒業後の社会生活に活かしていただけるように支援を行っています。

また生活のしづらさに影響があるとされる記憶力や注意力、実行力などの認知機能の改善を図るためにパソコンソフトを用いた認知機能リハビリテーションの介入研究をおこなっています。この取り組みにより、認知機能のみならず社会機能まで改善することが期待されます。



太極拳の一風景

部門紹介

B病棟7階（消化器・内分泌代謝内科病棟）

B病棟7階は消化器・内分泌代謝内科病棟です。

主な疾患は肝臓疾患・消化器疾患・糖尿病など慢性的な経過をたどる患者さんが多く、内視鏡治療・化学療法・放射線治療など地域の基幹病院として幅広い治療を行っています。

当病棟では、急性期から慢性期、ターミナル期までじっくりと患者さんに関わることができ、高度で先進的な医療と思いやりのある看護を提供しています。

慢性疾患で再入院される患者さんが多いため入院時から退院後の生活を見据えた関わりが必要です。特に肝疾患患者さんを対象として医師や看護師、コメディカルが協力し、症状・生活指導・薬剤・栄養など多岐にわたる内容で肝臓病教室を実施し、患者さんや家族が自分の疾患を知り理解を深めるよう取り組んでいます。またターミナルケア・緩和ケアに力を入れ、患者さんの個別に応じたその人らしいケアを大切にし、努力しています。

患者さんの笑顔や「ありがとう」の一言が私たちの大きな力

の源です。「笑顔でやさしい心の看護」を病棟の看護方針にし、辛い検査や治療であってもB病棟7階に入院してよかったと思っていただけるよう患者さんの心に寄り添ったケアを実践していきたいと思っています。



B病棟8階（耳鼻咽喉科 甲状腺外科・呼吸器血液内科・総合診療科病棟）

B病棟8階は病床数58床で、平成26年5月より耳鼻科31床、呼吸器血液内科21床、総合診療科6床の3科混合病棟に再編成されました。耳鼻科・甲状腺外科は頭頸部領域の悪性腫瘍が多く、手術療法や放射線・化学療法などが主な治療で、呼吸管理や咀嚼・嚥下障害の為に栄養管理などが必要です。また外見上の変化、コミュニケーション障害、ターミナルケアなど精神的な看護も重要です。呼吸器血液内科は21床のうち高度無菌治療室2床と無菌治療室16床を有し、白血病・悪性リンパ腫など造血器組織の疾患等の患者さんが入院されます。移植・化学療法を行うために長期入院療養の患者さんが多く、より精神面での看護が必要とされます。その為、がん専門看護師や多職種との連携をとりながらチーム医療を実践しています。総合診療科は主に患者さんの確定診断をする場合が多く、自己免疫疾患や悪性リンパ腫、不明熱、糖尿病のコントロールや様々な領域の患者さんが入院されます。3科共に入退院も多く急性期・慢性期・終末期とすべての領域での看護が必要です。緩和・精神ケアなど専門チームとの連携を行い患者さんに「寄り添う看護」を行っています。

私たちは、看護部の理念・目標に沿った看護を目指し、“プロの看護師として誇りをもち、生き生きと働き続けられる職場づくり”“患者さんと向き合った看護をしよう”と医師・多職種と協力・連携し、日々切磋琢磨しながら患者さんの治療・看護に取り組んでいます。



C病棟3階（集中治療部）

集中治療部は、C病棟3階にありICU9床 CCU4床の計13床です。

さまざまな医療機器に囲まれた空間で、ゆっくりとした療養環境ではありませんが、生命の危機的状況から少しでも回復に向かうため、昼夜を問わない集中的看護を提供しています。

看護職員は看護補助者1名を含む45名で、医師・臨床検査技師・臨床工学技士・理学療法士・薬剤師・クラークなどが加わり、一体となってチーム医療で家族を含めた看護を、心をこめて行っています。集中治療部の看護師には、よりの確なフィジカルアセスメント能力と細胞レベルでの思考・分析能力、急激な変化にも対応できる判断・処理能力と危機的な状況下にある患者さん・家族を擁護する高い倫理性が求められます。

各々が、積極的に研修や勉強会に参加しお互いを高め合っています。チーム活動も活発に取り組んでいます。Aチームが、医療・重症度・看護必要度の入力、コミュニケーションを考えたフィッシュ哲学、Bチームは、感染予防と、心臓疾患患者さんのリハビリテーション、Cチームは、5S活動と接遇、抑制に対しての正しい取り組みを行っています。

緊張感が高い部署ですが、チームワークが何より大切なのでコミュニケーションを大切にしています。

患者さんの在室期間は短く、看護をするのは入院期間のほんの一瞬ですが、身体や気持ちの一番大変な時期を支える存在としていつも近くにおり看護をしています。



フレッシュマン紹介

【看護師】

A病棟7階南 ^{まるやま なほ} 丸山 奈穂



4月からA病棟7階小児センターに配属されました。
私は子どもが大好きで小児科を希望しましたが、いざ仕事に就くと処置やケアなど全てが初めてで戸惑うばかりでした。しかし、毎日子ども達と接する中で自身の関わり方が適切なのか、様々な不安や迷いを感じながらも、入浴介助や遊びを取り入れたコミュニケーションの場面で子どもたちの笑顔や「看護師さん、ありがとう」の一言がとても嬉しく、少しずつやりがいを感じています。そして先輩方の優しい声掛けや指導を頂きながら、3ヶ月目を迎えることができました。私が配属されているチームには血液疾患、腎疾患、悪性新生物など長期治療を余儀なくされた患児が入院しています。
新人看護師として複雑な処置や検査など病棟業務に慣れるよう努力し、患児の苦痛を少しでも軽減し家族支援を実践できるように、一人一人と同じ目線に立ったケアを心掛けたいと考えます。社会人としての基礎知識はもちろん、治療状況などを把握するとともに発達段階に合わせた関わりができるように、専門的知識を深め、患者さん・家族の笑顔を引き出せる小児科らしい看護師を目指し頑張りたいと思います。

【看護師】

中央放射線部 ^{おにつか だいき} 鬼塚 大樹



中央放射線部に入職し、3ヵ月が経ちました。入職した時は、聞き慣れずイメージの付きにくい部署であるため、他の部署で働く同期から中央放射線部は何をすることなのか、よく尋ねられましたが、入職したての自分もどのような部署が分からず、不安な気持ちで一杯でした。中央放射線部で働く先輩が歓迎してくださり、毎日熱心に指導していただいているおかげで、現在は検査部門であるCT検査、治療部門である心臓カテーテル治療・検査について日々頑張っています。
病棟看護師と違い、患者さんとの関わりが短いからこそ大切にケアすることが出来、心臓カテーテル室では最先端の医療に携わることが出来るため、やりがいを持って働くことが出来ています。今後、1人1人の患者さんとの出会いを大切に、1人前の看護師としてより高度で専門的な治療に付き、チームの一員になれるように頑張っていきたいです。どうか皆様よろしく願いいたします。

【理学療法士】

医療技術センター リハビリテーション係 ^{てらむら まなみ} 寺村 麻奈未



4月に入職し、医療技術センター リハビリテーション係で理学療法士として勤務させて頂いています。
入職当初は不安や緊張を感じることもばかりでしたが、先輩方が丁寧に指導してくださり、業務にも少しずつ慣れてきました。現在は様々な疾患を有する患者さんや術後早期の患者さんに対するリハビリテーションを行っています。疾患に対する理解や評価・治療、他部門との連携を短期間で行わなければならない、知識不足や至らなさを感じる毎日ですが、日々先輩方や患者さんから学ばせて頂いています。
まだまだ未熟で至らない点が多くありますが、患者さんを支えるチーム医療の一員として、どのように関わっていけばよいのかを常に考えながら、患者さんやスタッフの皆さんから信頼される理学療法士となれるよう努力していきたいと思っています。よろしく願い致します。

【臨床検査技師】

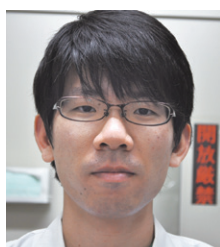
中央臨床検査部 ^{まつなが たけし} 松永 剛



今年度より中央臨床検査部に入職しました。中央臨床検査部では、入職後2年間で4部門のローテーションがあり、まずは生化学検査をすることとなりました。
生化学検査は、検査依頼数や検査項目数も多く、患者さんの状態把握に欠かせない部門だと思います。だからこそ、正確で正しい検査結果を迅速に返却できるよう、検査機器の状態管理や検査項目の精度管理をしっかり行っています。
まだまだ、不慣れな点も多く、上司や先輩方に助けていただきながら日常業務を覚えることで精一杯ですが、少しずつ成長し、少しでも診療へ貢献できるよう努力しようと考えております。至らぬ点も多くありますが、宜しくお願いいたします。

【臨床検査技師】

病院病理部 ^{たつみ しげのぶ} 龍見 重信



今年度の4月から病院病理部に配属されました。新卒である自分にとって、経験する全ての事が新鮮で毎日が勉強のため、非常にやりがいのある職場だと感じています。最初の3週間は覚えることがとてもあり、手がいっぱいになることも多々ありました。もうすぐ3ヶ月が経とうとしていますが、まだまだ覚える仕事がたくさんある中、徐々に現在の仕事にも慣れ始め、仕事に対する楽しさと責任を一層感じるようになりました。病理部には同期はいませんが、先生や上司、先輩方に恵まれた楽しい職場だと思います。「患者さんのために」、「勉強」、「研究」を大切にこれからも頑張っていきたいです。よろしく願いします。

【臨床検査技師】

輸血部 さかもと はなえ
坂本 華恵



4月に入職し、輸血部に配属されました。前職場で輸血検査を行っていましたが、苦手意識があったためきちんと仕事ができるかととても不安でした。

抗体同定に至るまでいくつも検査を行うのは楽しいですが、一方で思うように仕事を覚えることができず何度も挫けそうになりました。しかし家族や友人の支え、また先輩たちが優しく根気強く教えてくださり、5月から当直勤務に加わるという目標を達成することが出来ました。

輸血はチーム医療の一つで、その一員として正確な手技でスピーディーに検査を実施し、速やかに結果を臨床に返さなければなりません。また検査データを頼りに輸血が必要になるかを予測し、予め検査を進めることもあります。

患者さんの姿が見えない分、わからないことも多いですが、少しでも早く状態が良くなるように輸血部員として出来ることを頑張っています。

【臨床工学技士】

医療技術センター 1係 くすい としゆき
楠井 敏之



本年度4月より医療技術センター1係にて務めさせていただいております臨床工学技士の楠井敏之です。医療技術センターの臨床工学技士は透析室、心臓・血管カテーテル室、手術室など院内の多岐にわたる部門で業務を行っており、私はその中で地下のMEセンターにて機器管理業務を担当しています。

MEセンターには毎日たくさんの医療機器が運ばれてきており、機器の状態に応じた対応や清掃・点検手順を身につけるため日々奮闘しています。そんな中で諸先輩方にはなぜこうするのかという根拠に基づいた指導をいただくだけでなく、勉強会も開かれており職場環境に恵まれていることを実感しています。

だからこそ私は、この奈良県立医科大学付属病院で勤務されている医療スタッフの方々から信頼して医療機器の管理を任せられるような人材になりたいと思います。そのために自身のスキルアップに励み、真摯な思いと熱意をもって勤務していきます。まだまだ未熟な私ですが新人であることに甘えることなく頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

【診療放射線技師】

中央放射線部 やすい あかり
安井 亜加里



中央放射線部で診療放射線技師として勤務しております。

去年4月から1年契約の契約専門職員として勤務していましたが、今年4月から正規職員に昇格することができました。

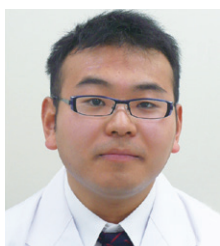
現在は一般撮影、救急撮影、OPE場撮影、病棟ポータブルなどを担当しております。

最初は業務の流れや内容、機械の操作など覚える事がたくさんありますが、先輩方に丁寧に指導して頂いて、少しずつ慣れてきました。

院内では、撮影室、救命センター、病棟、OPE場、などでお会いする機会があると思います。まだまだ未熟ですが、これからも成長し頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

【薬剤師】

薬剤部 たむら さとし
田村 曉識



今年の4月から薬剤部で勤務しています田村曉識です。初めての社会人生活で不安でいっぱいの中、先輩方一つ一つ丁寧に指導していただき入職してから早くも2ヶ月が経ちました。

薬剤部では、毎日1000枚を超える処方箋を調剤しています。さらに、医師や看護師の方と比べると患者さんに直接接する機会が少ない仕事ではあるかもしれませんが、窓口の服薬指導や吸入指導の際に患者さんからお礼を言ってもらえた瞬間は、この仕事を選んで良かったと思える瞬間でもあります。

今後、その気持ちを忘れることなく多くの患者さんと関わらせていただきながら、医薬品を適切に使用して患者さんの治療に貢献できる薬剤師になれるように日々精進するとともに、少しでも奈良医大に貢献できるように頑張っていきたいです。どうぞよろしくお願い致します。

【事務】

医療サービス課 医事管理係 おおみち ひろあき
大道 裕士



今年の4月から医療サービス課に勤めている事務職員の大道です。

入職して3ヶ月目ですがまだまだ慣れないことが多く、日々上司や先輩方のご助力を頂きながら、早く仕事を覚えられるようにと日々の仕事に取り組んでいます。

病院についての知識に乏しく、ほぼゼロからのスタートでしたので日々新しい発見の連続で、今まで患者としては気づかないところで色々な方が様々な仕事をする中で病院が成り立っていることを感じております。

現在は、診療録（紙カルテ）の廃棄業務と今年で契約満了を迎える医事委託の契約に関する業務に携わっております。自分の仕事で少しでも奈良県立医科大学及び附属病院がよりよくなる一助になると信じて努力しております。

まだまだ至らない点も多々あり、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯頑張らせていただきますので、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。

未来のチームメンバーを探して!! ～看護職員リクルートチーム活動報告～

看護部の若手スタッフを中心とした『看護職員リクルートチーム』は平成25年度から活動を開始しています。

本年1月からは、メンバーも大きく入れ替わり、新しい気持ちで活動しています。

チームの構成は、各所属から推薦されたスタッフ19名と看護副部長、総務課で構成しています。

重要な役割は、本学附属病院の魅力を、学生の目線でPRすること。3～7月にかけて企業主催の説明会、学校訪問に飛び回りました。未来の同僚に会うため、リクルートチームの活動は続きます。継続的なご理解とご協力をよろしくお願い致します。



C病棟3階(集中治療部) 松葉 晃平

病院説明会にて奈良医大のことを学生に話しをしていくなかで、自分は親しみやすさや自分自身の病院選びの時の事を思い出しながら話をしました。

学生に話をする事で少しでも就職への不安に対して助言できたことは嬉しく思います。このリクルートチームの活動を通して、自分が今度は後輩を支えていこうという気持ちが大きくなったと感じました。

C病棟8階(呼吸器内科・感染制御内科) 上東 由季

経験も浅く、未熟な私に学生さんへのアドバイスなんてできるのか…と初めは不安でした。しかし周りの方のフォローがあり、「1番学生に近い私」だからこそできることは何かと考え、就職に対して不安を抱く学生さんに自身の体験を基にアドバイスをすることができました。

また、活動に参加することで自分自身を見つめ返し、仕事に対するモチベーションを高めることができる良い機会となりました。

公開講座『くらしと医学』開催のお知らせ

平成26年度前期公開講座『くらしと医学』を下記のとおり開催します。

申込み・受講料共に不要ですので、皆様お誘い合わせの上、ぜひご聴講ください。

日時：平成26年9月20日(土) 13時～15時30分

場所：奈良県橿原文化会館 大ホール(橿原市北八木町3丁目65-5)

プログラム：

● 第二生理学 教授 堀江 恭二

「細胞の不思議な力と再生医療」

概要：私たちの身体は60兆個の細胞から成り立っています。つまり、世界人口の1万倍もの数の細胞が見事に調和することで、1人の人間の身体が出来ています。細胞が持つこの不思議な力と、その力を引き出して再生医療へ結びつける試みについてお話しします。

● 眼科学 教授 緒方 奈保子

「元気な高齢者のひけつを目から科学する」

概要：高齢者では白内障、加齢黄斑変性、緑内障の人が多くなります。視力が落ちると生活の質(QOL)に大きく影響します。私たちは「ゲンキな高齢者のヒケツをさぐる健康調査」を行っています。元気な高齢者は視力が良く、また視力の良い人は認知機能低下が少ないことがわかってきました。良い視力は疾患の予防につながる最大のアンチエイジングであると言えます。

● 皮膚科学 教授 浅田 秀夫

「いたみを伴う皮膚の病気～帯状疱疹(たいじょうほうしん)～」

概要：帯状疱疹は、「水ぼうそう」の原因ウイルスと同じウイルスによって起こります。高齢者に起こりやすく、体の片側に、赤み、水ぶくれが帯状にできて、痛みがあります。皮膚が治ったあとも神経痛が残りやすい病気です。早く治療を始めれば、重症化するのを防ぐことができます。「帯状疱疹かな?」と思ったら、我慢をせず、すぐに皮膚科を受診することが大切です。

<http://www.naramed-u.ac.jp/info/openlecture.html>

レポート（役員会及び教育研究審議会の報告）

第1回 役員会（4月2日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - 教員の人事について
 - 大学機関別認証評価結果について
 - 卒業生の進路等について
 - 入学者の状況について
- 教育研究審議会委員の選任を承認
- 手術料を診療科や病院中央部門に還元することを承認
- 中央診療施設長等（4月1日付副院長、重要課題プロジェクトリーダー、輸血部長、中央手術部長、集中治療部長、中央内視鏡・超音波部長及び副部長、透視部長、移植細胞培養センター長、中央材料室長、医療安全推進室長補佐、栄養管理室副部長、医薬品安全管理責任者）の病院長発令を報告

第1回 教育研究審議会（4月3日）

- 教員の人事について、4月30日付け退職を承認
- 中長期計画推進委員会委員の選任を承認
- 平成25年度実施の大学機関別認証評価結果を報告
- 卒業生の進路等を報告
- 入学者の状況を報告

第2回 役員会（4月16日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - 病院教授について
 - 平成26年度科学研究費助成事業の交付内定状況について
- 中長期計画推進委員会委員の選任を承認

第3回 役員会（5月7日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - 教員の人事について
 - 任期制教員の再任審査について
 - 教授選考に係る教育研究審議会への諮問について
 - 中長期計画推進委員会の廃止について
 - 看護実践・キャリア支援センター兼任教職員の発令について（案）
 - 各種委員会委員の改選について
 - 外国人客員研究員の受入れについて
- 看護職員採用試験において6名の合格者を決定
- 中央診療施設長等（6/1付け医療安全推進室長）の病院長発令を報告

第2回 教育研究審議会（5月8日）

- 教員人事について、6月1日付け昇任及び配置換えを承認
- 6月30日付けで任期満了となる講師1名、学内講師1名、助教1名の再任を承認
- 6月1日付けで准教授1名に対する病院教授の称号付与を承認
- 中長期計画推進委員会の廃止を承認
- 看護実践・キャリア支援センター兼任教職員の発令を承認
- 母性看護学教授選考にあたり役員会から諮問があったことを報告
- 各種委員会委員の改選について学長の指名による委員の選任を報告
- 平成26年度文部科学省科学研究費助成事業について4月1日現在の採択状況を報告
- タイから客員研究員1名の新規受入れを報告

第4回 役員会（5月21日）

- 医療技術職員の採用試験の実施にあたり、実施予定職種及びスケジュール等を承認
- 周術期管理センターの設置に伴う病院規程の一部改正を承認
- 昨年5月に実施された特定共同指導に係る返還額を承認
- 作業療法士採用試験において1名の合格者を決定

第5回 役員会（6月4日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - 教授選考に係る教育研究審議会への諮問について
 - 教員の人事について
 - 任期制教員の再任審査について
 - 任期を定めて任用する教員の再任手続きに関する規程の一部改正について
 - 教員の海外留学について
 - 平成25年度計画の実施状況及び第二期中期計画の進捗状況について
 - 平成26年度講座・教員研究費の配分について
 - （仮称）公立大学法人奈良県立医科大学連携交流推進基金の設置等について
 - 奈良県立医科大学とチェンマイ大学との学術交流協定の一部改正について
- 看護職員採用試験において66名の合格者を決定

- 中央診療施設長等（5/21付け周術期管理センター長）の病院長発令を報告

第3回 教育研究審議会（6月5日）

- 母性看護学教授選考にかかる領域教員からの意見聴取を実施
- 教員人事について、4月1日付け兼務発令、6月30日付け退職、7月1日付け採用及び昇任を承認
- 7月31日付け、9月30日付けで任期満了となる准教授1名、教授1名の再任を承認
- 任期を定めて任用する教員の再任手続きに関する規程の一部改正を承認
- 海外留学について、助教1名の新規、助教2名の期間延長を承認
- 平成25年度計画の実施状況及び第二期中期計画の進捗状況を承認
- 平成26年度講座・領域研究費の配分を承認
- （仮称）公立大学法人奈良県立医科大学連携交流推進基金の設置等を承認
- 奈良県立医科大学とチェンマイ大学との学術交流協定の一部改正を承認
- 4月1日付けの臨床講師の称号付与を承認
- 英語教授選考にあたり役員会から諮問があったことを報告
- 平成28年度看護学科一般選抜試験（前期日程）入学選抜方法等を報告
- 医学科入学試験委員会委員の増員を報告

第4回（臨時）教育研究審議会（6月10日）

- 総合医療学教授候補者として西尾健治氏を決定し、役員会に答申

第6回（臨時）役員会（6月10日）

- 総合医療学教授候補者として西尾健治氏を承認

第7回 役員会（6月18日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - 情報セキュリティポリシーの策定について
- 平成25年決算（案）を承認
- 平成25年度業務実績報告書（案）の県への提出を承認
- IVRセンターの設置及び設置に伴う規程の整備を承認

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
大崎 茂芳 特任教授 (皮膚科学)	毎日新聞 夕刊 4月26日(土) サンケイニュース(インターネット) 5月17日(土) 産経新聞 朝刊 6月3日～5日(火～木) TBS テレビ「王様のブランチ」6月7日(土) 海外向けドキュメンタリー「We are crazy」5月	スパイダーマン2の封切りに関係して、クモの糸の研究での長年にわたって得られた研究成果(クモの糸から見つけた危機管理の基本である「2の安全則」の発見、クモの糸にぶら下がることに成功、クモの糸でヴァイオリンの弦作りに成功、など)が報道された。 クモの糸の研究が「We are crazy」として1本分のフィルムとして海外14か国に配布。
今村 知明 教授 (健康政策医学)	The Wall Street Journal 4月30日(水) MSN 産経ニュース 4月30日(水) NHK NEWS WEB(首都圏版) 4月30日(水) 産経新聞 5月1日(木) 上毛新聞 5月1日(木) FNN 5月1日(木) 東洋経済オンライン 5月3日(土) 時事通信社(時事ドットコム) 5月29日(木) msn 産経ニュース(WEB) Sankei Biz 5月29日(木) ANN(テレビ朝日系) 5月29日(木) 日刊工業新聞 5月30日(金) 東京新聞(WEB) 5月30日(金) 東洋経済オンライン 6月4日(水)	今村が委員長を務めるアクリフーズ「農業混入事件に関する第三者検証委員会」中間報告(2014年4月30日)に関する報道について掲載された 今村が委員長を務めるアクリフーズ「農業混入事件に関する第三者検証委員会」最終報告(2014年5月29日)に関する報道について掲載された
加藤 礼識 大学院博士課程1年 (健康政策医学)	毎日新聞 朝刊 5月24日(土)	5月26日に岡山市で開かれた日本衛生学会で発表のインターネットを用いた看護師の離職調査について取材を受けコメントした
附属病院 院内学級	NHK 奈良「ならナビ」6月26日(木)	本学附属病院の院内学級(小学部)を担当する橿原市立今井小の藤本先生と西谷校長は、子ども達が少しでも前向きに明るく学習できるように子ども達の詩に曲をつけるという活動を行っている。 音楽の授業が難しい状況のなかでも、子ども達が合唱や合奏を楽しみ、自分達の詩が曲として形に残ると喜びを感じている姿や、入院している子ども達も小学校に通っている他の子ども達と同じように勉強したり音楽を楽しんだりしている姿を伝えることで、病気を抱える子ども達やその保護者に対する理解と共感を得、また、入院している子ども達やその保護者が院内学級の存在を知り、少しでも前向きに治療に臨めるような内容で放映された。
斎藤 能彦 教授 (第一内科学)	毎日放送「医のココロ」CKDと腎不全 5月31日(土)	動脈硬化に関連する疾患に焦点をあてた9回シリーズの1つとして、CKDと腎不全の特徴・予防に関して概説した。

看護師インターンシップ・採用試験実施日程

病院見学会、インターンシップ、採用試験を下記の日程で予定しております。
学生の皆さん！是非ご参加ください。

病院見学会：7/23、8/20 いずれも（水）

インターンシップ：7/23・24、7/30・31、8/6・7、8/20・21、8/27・28 いずれも（水・木）

採用試験：7/19（土）、8/23（土）、9/20（土）、10/18（土）、11/22（土）、12/20（土）

詳しくは、こちら <http://www.narmed-u.ac.jp/~bosyu/kango/>



学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.narmed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

掲 示 板

仕事帰りに心地よい汗をかいてリフレッシュしませんか。

本学から 2km 程南に野球場や陸上競技場を備えた奈良県立橿原公苑があります。

昨年 3 月、公苑内にジョギング&サイクリングステーションが完成し、ロッカールームやシャワー、化粧室が整備されました。陸上競技場では毎週月・水・金曜日の夜間 17 時～21 時をナイトランとして無料開放されています。ステーションの中にはストレッチルームや自転車のメンテナンスなどが行えるサイクルステーション、休憩、待ち合わせに利用できるサロンなどがあり、県の施設とは思えない充実ぶりです。

これからの季節、野球場では高校野球、陸上競技場ではサッカー、体育館では奈良で唯一のプロバスケットチーム「バンビシャス奈良」の試合もあります。自分でランニングやテニスを楽しむもよし、試合を観戦して熱くなるもよし、秋に行われる「まほろば市」でおいしいものをゲットするもよし、身近にある橿原公苑楽しんでみませんか。

研究推進課

編集後記

附属病院の重要な取り組みについて掲載させていただきました。平成 26 年診療報酬改定は、0.1% のプラス改定と うたっていますが消費税対応分の 1.36% を相殺すると実質 1.26% のマイナス改定です。今回は社会保障・税一体改革で示された医療・介護提供体制の「2025 年モデル」を見据え多岐にわたって切り込んだ厳しい内容で、特に医療機関の機能分化として 36 万床に膨れた 7 対 1 病床の見直しが象徴的です。例えば重症度・看護必要度などで 7 対 1 病床をふるいにかけています。大学の発展において病院経営の健全化は肝要なことであり、附属病院の重点取り組みを推進するように、病院に働く人たちがだけでなく、大学に関わる全ての人たちの協力が望まれます。

○岸本 年史（精神医学）	山名香奈美（母性看護学）	吉田 一良（病院管理課）
藤本 雅文（物理学）	錦 三恵子（看護部）	森田 英之（総務課・広報室）
京谷 陽司（薬理学）	藤谷 威行（研究推進課）	植松 聡（総務課・広報室）
藤本 正男（内科学第三）	永井 淳（教育支援課）	（○印は編集委員長）